

補助事業の実績

I 目的

平成 28 年度から 3 年間実施した「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえて、教育・保育アドバイザーを配置する市町村を拡充し、県と市町村が連携しながら、就学前施設への巡回指導や地域での研修等を実施することで、教育・保育の推進体制の充実・強化を図る。
(本県事業名：わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業)

II 方法

「県（幼児教育センター）の取組」「県と市町村との連携による取組」「市町村の取組」を実施

III 実施内容

県（幼児教育センター）の取組

1 教職員の専門性の向上

(1) 「保育者等が習得すべき資質・能力ガイドライン」の完成・周知

①目的

保育者等がキャリアステージに応じて習得すべき資質・能力のガイドラインを作成・周知し、県内就学前・教育保育施設等や県及び市就学前教育・保育行政が共通の方向性をもって保育者等の人材育成を図ることができるようにする。

②方法

・令和 3 年度「秋田県教職キャリア会議」への提案及び審議

③実施内容

- ・第 1 回秋田県教職キャリア協議会 6 月 2 日
- ・ワーキンググループ会議第 1 回 7 月中旬紙面会議実施
- ・第 2 回秋田県教職キャリア協議会で承認 10 月 19 日
- ・ワーキンググループ会議に紙面で 11 月上旬完成最終報告
- ・就学前教育推進協議会(11/26)でワーキング会議委員長より市町村担当者等に完成版周知
- ・教職キャリア指標の完成を受け、自己到達目標評価表の修正
- ・「秋田県教職キャリア指標(保育者)」[令和 4 年 3 月全園に配付]

④令和 4 年度に向けて

- ・各種研修会での活用及び周知
- ・園訪問等の際に、具体的な人材育成の指標として活用を促す

(2) 保育者の専門性向上を図る研修機会の実施

□「園内研修リーダー養成講座」の開催（園内研修を推進する研修リーダーの育成）

①目的

公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等における園内研修のより一層の充実を図るため、園内研修を推進する保育者に対し、組織的・計画的・継続的な研修を目指した研修リーダーの役割に関する研修を行い、その資質の向上を図る。

②期日・場所

令和 3 年 9 月 17 日（金）、11 月 19 日（金）オンライン開催

③参加者

113 名 県内公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の研修リーダー（次世代の研修リーダーを含む）、市教育・保育アドバイザー等

④講師

群馬大学教育学研究科 教授 音山 若穂 氏

⑤実施内容

- ・研修計画の作成と研修の進め方の基本、目的に応じた研修手法、園内研修の評価と改善、組織的・計画的・継続的な園内研修にするための工夫、コミュニケーションスキルの活用 等
- ・他園に学ぶ研修課題の実施(他園の研修に参加もしくは自園での研修実践)

⑥令和4年度に向けて

- ・園内研修を推進する役割を理解し、研修で学んだスキルをどのように日常の現場で実践していくかが、本研修にとって重要である。オンラインのメリットもあるが、講師のすばらしい教えを具体的に感じ取るにはやはり対面が望ましく、多くの受講者から対面での講義・演習を期待する感想が多く寄せられた。人数を絞っての開催や分散など可能性を探っていく。

□「県主催就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（小学校教育への円滑な接続）

①目的

地域における就学前及び小学校の教育における円滑な接続の在り方について、就学前教育・保育施設等と小学校の教職員の相互理解を深めるとともに、教職員の資質の向上を図る。

②期日・場所・参加者

- 北地区 令和3年7月29日（木） 北秋田市交流センター（北秋田市）
園関係者44名、小学校関係者33名、計77名
- 中央地区 令和3年7月30日（金） 秋田県生涯学習センター（秋田市）
園関係者21名、小学校関係者17名、計38名
- 南地区 令和3年8月3日（火） 羽後町文化交流施設美里音（羽後町）
園関係者27名、小学校関係者17名、計44名※紙面配付対応

③対象(中核市及び事業実施市以外の市町村、実施市は市の課題・テーマに応じ単独開催)

園の職員、小学校職員、市教育・保育アドバイザー

④実施内容

接続期の子どもの育ちや学びの共有による双方の教育の理解、小学校教育との円滑な接続に向けた連携・接続体制についての協議（ステップ3、4を目指して） 等

⑤令和4年度に向けて

- ・令和3年度から県主催の合同研修会と事業実施市主催の合同研修会を明確に分けて実施したことで、より地域に応じた課題やテーマで相互理解を含めた研修の充実が図られたことから、次年度以降も継続していく。
- ・国の幼児教育スタートプランを踏まえ、架け橋プログラムについての全県域に理解啓発を図る。

(参考) 本県の幼小連携・接続の実践状況

「令和3年度及び令和2年度秋田県における就学前教育・保育に関するアンケート調査結果」

No.	質問項目	令和3年度	令和2年度	全年比
1	子ども同士の交流	64%	64%	0%
2	保育者・教員間の情報交換	85%	83%	+2%
3	接続を意識したカリキュラムの編成	91%	84%	+7%
4	保育者による小学校の授業参観	49%	69%	-20%
5	保育者による小学校の授業参加	21%	22%	-1%
6	小学校教員による保育参観	53%	49%	+4%
7	小学校教員による保育参加	14%	18%	-4%

2 教育・保育推進体制の拡充

(1) 「就学前教育推進協議会」の開催

①目的

県全体の教育・保育の質の向上を目的とした県と市の連携による教育・保育の推進体制について県内幼児教育関係者が協議し、以後の推進体制構築に資する。

②期日

令和3年11月26日（金） オンライン開催

③参集範囲及び参加者数

県内大学関係者、市町村教育・保育行政関係者、県内教育・保育団体関係者、就学前教育・保育施設関係者、小学校長会関係者、県教育庁関係者 等

42名参加(事務局除く) 実施市を含めた17市町村の行政担当者が参加

④内容

【説明】

- ・事業概要
- ・事業に係るアンケート結果から
- ・実施市成果等中間報告(資料による紙面紹介)
- ・教職キャリア指標(保育者)完成報告及び活用について
- ・令和4年度からの国及び県の事業について

【協議】座長：秋田大学教育文化学部 教授 山名 裕子 氏

- ・協議テーマ「乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続」

◇視点1：乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続をどのように捉えているか
(委員及び各市町村担当者より)

配置市町村の委員(公立幼稚園・こども園)

- ・まずは日々の保育が大切。目には見えない力を保育者がしっかりと捉え、育てていきたい。一人一人の興味関心や育ちについてしっかり小学校に伝えることが大事。幼小の相互参観等、訪問の機会を大事にしたい。

未配置市町村の委員(私立保育所)

- ・遊びの中で発達していく姿、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を保育で大事にしている。小学校職員とは情報を密にしている。子どもたちには小学校への期待感をもたせるように実践している。
- ・0～5歳児までの育ちや発達をつなぐを大事に保育しているが、目の前の保育が円滑な接続にどうつながっているのか疑心暗鬼もあり、うまくいっていない印象がある。

配置市町村の委員(私立幼稚園・こども園)

- ・まずは保育者が0～5歳児までの育ちを理解していくことが大切であり、職員で共通理解を図る取組をしてきている。公開保育、授業参観で、協議や話合いの場を設けることが円滑な接続につながるものと考えている。また、家庭や地域に、幼稚園や小学校の取組を知ってもらうことも円滑な接続に向けた工夫と捉えている。

未配置市町村の委員(私立幼稚園・こども園)

- ・子どもに温かいまなざしを向けることを意識し、環境の変化の段差を丁寧に見ていくことが大事と実感している。また、「できる」「できない」という目に見える部分だけでなく、非認知能力、心情意欲の面でも園全体で認識を共有し、小学校へ送り出すことが円滑な接続につながると考えている。
- ・園での取組が小学校でどのように生かされているのかという視点で話し合っていくことが大事と考えている。
- ・アドバイザー配置市では、取組がうまくいっている印象があり、そのような存在が必要と感じる。

未配置市町村の委員(公立幼稚園・こども園)

- ・保育の意図を積極的に発信していくことや小学校以降の学びにどうつながっているのかを理解し合うことが大事。

自治体担当者より（円滑な接続のために）

- ・育ちをつなぐ取組を各機関と連携して進めている。
- ・4歳児ステップ相談でその後の保育や関係機関とつなげ、育ちを支えている。
- ・市内教育関係者による実践発表会での発表を通じ、保育実践を伝えている。
- ・市として体制面を整えている。
- ・学区、ブロック毎の組織的な取組を推進している。

◇視点2：幼小の円滑な接続を具現するためにどうすればよいか
（委員及び各市町村担当者より）

配置市町村の委員（私立幼稚園・こども園）

- ・要請訪問、AD訪問、公開保育等、外部公開を増やし、円滑な接続に向けた取組を進めていきたい。
- ・教育機関の橋渡しをアドバイザーがしてくれることによって、同じ視点で相互参観、協議が充実してきている。
- ・本質的な理解につなげていくため、小学校側の見方を崩すことが必要。アドバイザーが小学校区での仲立ちをし、午後の協議にも参加してもらうように働きかけたことにより、互いの目指しているものが分かるようになってきた。

配置市行政担当者

- ・相互職場体験や参観を通じ、継続的に成長や変容を捉える機会を設け、保育や学習の指導内容について共通理解を図っている。
- ・市主催の合同研修会で、指導計画やスタートカリキュラムの見直しを学区のグループで実施し、次年度に活かせる効果的な協議ができた。参加者が自分事として捉え、円滑な接続に向けたそれぞれの課題が洗い出される機会となった。
- ・特定の職員による研修（偏りがある）になっていることが課題。
- ・多忙化解消を目指す中で、時間や機会の設定・確保が課題。
- ・公開保育への小学校側の参加者が管理職に偏っていることの改善。

未配置市の行政担当者

- ・幼保小連絡会を実施しているが、子ども同士の交流、職員同士の情報交換等の連携が主で、円滑な接続の取組が十分とは言えない。市内の学校や園にニーズの把握や課題の整理ができていないため改善が必要。
- ・行政として、園と学校教育の連携、意識の共有が必要と感じている。幼保と小をつなぐアドバイザーが必要と考えている。
- ・幼保小連携の手引を作成し協議会で活用している。幼保の実態を把握できていないことから、小学校側からのアプローチが強いと感じ、改善を図っていく。
- ・小学校側に、やはり遊んでるだけと思われていることを実感した。遊びによる学びは目に見えないことが多い。非認知能力の部分を子どもたちに育てたいと考えている。保育生活の様子を理解してもらう機会をもっと設けるべき。互いに学べる研修を企画することも有効な手段と考える。

未配置市町村の委員（私立保育所）

- ・就学前教育・保育と小学校教育の相違点、共通点について認識することが難しいという課題がある。

未配置市町村の委員（私立幼稚園・こども園）

- ・主に教育委員会が主体となって年3回連絡協議会を実施している。両方の先生方が参加してい

る成果は大きい。今後は相互理解を図るため、他市町村が実践している取組など実現するとよい。参加対象者の工夫が必要。

山名座長の提言抜粋

- ・ どういう遊びをしているのかだけではなく、遊びを通して育てていることの意味づけを共有することが円滑な接続に欠かせない。
 - ・ 子どもの姿を具体的に語り、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」はあくまで方向目標であることを小学校の先生方にも理解してもらうこと。
 - ・ 前倒しの教育・保育にならないよう、それぞれの年齢に相応しい経験や体験を大事にすること。
 - ・ 教育・保育アドバイザーも含めて、保育者や小学校教諭等の様々な視点から子ども理解、発達理解を共有し深めること。
- ⑤令和4年度に向けて
- ・ 幼児教育スタートプランの推進、架け橋プログラムの理解などにおいて、具体的にどのように取り組めばよいか、さらなる協議と理解が必要である。そのための周知の場や協議の場を多く設定していく。

(2) 事業内容の発信

①就学前教育推進協議会での取組発信

「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」3年間の事業についてアンケート結果も踏まえ報告及び今年度実施市の教育・保育アドバイザーの配置による各市の取組状況や成果を発信した。

②幼保推進課ホームページ

「わか杉っ子元気に！ネット」での取組発信
幼保推進課ホームページ「わか杉っ子元気に！ネット」の「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」に前年度の県及び実施市の各事業内容や取組を掲載。次年度以降更に効果的に更新していく。

【掲載及び更新内容】

- ・ 事業計画書（県及び実施市）
 - ・ 事業実施状況（県及び実施市）
- ※その他必要と思われる内容を随時更新

【URL】 <http://common3.pref.akita.lg.jp/youho/>



「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」のページ

(3) 教育・保育アドバイザー未配置自治体の訪問

①目的

県と市町村の連携による教育・保育の推進体制の拡充の必要性についての理解促進を図る。

②方法

未配置市町村訪問(7・8月) 市町村担当者とオンライン会談(7月)

③実施内容

事業実施市の取組状況及び成果及び就学前・教育保育の質の向上の重要性について、市町村担当者を訪問し説明。訪問できなかった市町村にはオンライン会議の場を設け、各自治体の意見や要望を伺った。

④令和4年度に向けて

令和4年度以降の幼児教育スタートプラン及び身近なアドバイザー配置の必要性について、具体的な訪問や情報発信に努めていく。

(参考)市町村アドバイザー配置年度

年度	県北地域・実施市	中央地域・実施市	県南地域・実施市
令和元年(5市)	大館市	男鹿市 潟上市	横手市 仙北市
令和2年(6市)	大館市	男鹿市 潟上市	横手市 仙北市 大仙市
令和3年(7市)	大館市	男鹿市 潟上市 にかほ市	横手市 仙北市 大仙市
令和4年(8市)	大館市 能代市	男鹿市 潟上市 にかほ市	横手市 仙北市 大仙市

(3) 事業内容の評価・分析

①目的

県内教育・保育の状況等の把握・分析を通して、次年度以降の事業内容の検討材料とする。

②方法

- ・市教育・保育アドバイザーの訪問状況・内容、市主催研修会等、実施内容の分析
- ・アドバイザー活用に関するアンケート調査

③実施内容

- ・アンケート調査結果速報版を就学教育推進協議会にて周知。
- ・アンケート結果の分析を実施市の施策に活用

④令和4年度に向けて

アンケート結果の評価・分析を今後も進め、事業の推進に活用していく。

県と市との連携による取組

3 市教育・保育推進体制の支援

(1) 市教育・保育アドバイザーの育成

①目的

県教育・保育アドバイザーを核とした市教育・保育アドバイザーの育成・支援や、市教育・保育アドバイザーのネットワークを構築する。

②内容

- ア) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催(年5回計画)
- イ) 市の要請による県指導主事等の訪問支援
- ウ) 幼保推進課所管研修における専門性向上のための情報提供
- エ) 教育・保育アドバイザーの地域での活動の相互視察

③内容の詳細

ア) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催

保育者に対する具体的な指導・助言に関する演習や協議、事例検討、情報交換を行った。園や保育者の課題に対するよりよい指導・助言や支援の在り方や関わり等について考える機会とした。前年度に引き続き県教育・保育アドバイザーのコーディネートのもと、より実践的な内容も含め、年5回実施。

【参加者】(計15名)

- 県教育・保育アドバイザー(以下 県AD)1名
- 事業実施市教育・保育アドバイザー(市負担AD含 以下 市AD)12名
- 指導主事2名

【実施日程・場所・主な内容】

回	日時	会場	主な内容
1	4月28日(水)	13:00~15:30 秋田地方総合庁舎 605 会議室	・県と事業実施市の連携・協力体制の確認 ・講話「アドバイザーとして大切にしたいこと」
2	6月17日(木)	13:30~14:40 オンライン会議	・協議「コロナ禍におけるアドバイザーの役割について」(訪問状況、実践例紹介)
3	8月26日(木)	13:30~15:45 オンライン会議	・演習「子どもの姿(S)から学びを読みとり(O)を伝える～教育・保育アドバイザーの役割」 *上半期の成果と課題は紙面で情報提供
4	10月14日(木)	10:00~15:00 県庁第二庁舎 52 会議室	・幼小連携に係る取組の充実に向けて ・演習「『遊びを通じて学ぶ』幼児期の特性について」
5	12月22日(水)	10:30~15:00 秋田地方総合庁舎 601・602 会議室	・市ADとしての支援について(事例提供) ・令和3年度の成果と課題について ・令和4年度の県と市の連携体制について

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・幼保小連携の取組の情報交換では、小学校との連携を図るためにどのようなアプローチをしているかを聞くことができた。
- ・ビデオ視聴や事例等の研修から子どもの姿の見取りをどの部分に着目し、保育者に伝えることができるかを考えたり、子どもが遊びで経験したりしていることや学んでいることなどを共有することで、大事な視点を捉えることができた。
- ・集合型で研修を一緒にすることで、アドバイザー同士のネットワークが広がっている。
- ・各園から、研究に対する助言を求められる。日常の記録の仕方や協議の進め方について様々な事例を紹介してもらいたい。
- ・実施市も増えてきているので、テーマやブロックごとの分科会で情報交換をする場があってもよい。

イ) 市の要請による県指導主事等の訪問支援

- 園や保育者の課題に対する市アドバイザーの関わりや支援の仕方、悩みに対する指導・助言、研修会の企画・運営等の具体的内容に関することなど、市教育・保育アドバイザーを支援。
- 県指導主事及び幼保指導員による園訪問への同行

実施市における全園種を対象とした垣根を越えた各種訪問時に、市アドバイザーが県指導主事及び幼保指導員に同行し、保育の見方や園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めた。市アドバイザーは県指導主事等と園や保育者の課題解決に向け指導・支援するポイントを共有し、園へ継続的に指導・支援を実施。コロナ禍で県から訪問に行けなかった場合は、アドバイザーに園への支援を担っていただいた。

【市ADの同行数】

実施市	回数	前年比
大館市	21	-1
男鹿市	5	-4
横手市	5	+1
潟上市	6	-5
仙北市	9	+1
大仙市	18	+3
にかほ市	4	-

R3.4~R4.3

ウ) 幼保推進課所管研修会における専門性向上のための情報提供

市アドバイザーが幼保推進課主催の研修会に参加する中で、教育・保育内容等の理解を深めたり、研修会開催の企画・運営方法を学んだ。また、所管研修で学んだことを市主催研修会及び園訪問で活用し、研修内容の充実に努めた。この他、他市主催の研修会にも参加しているアドバイザーが増えてきている。

市アドバイザーの代替わりや新規の方の参加、配置人数の違いにより回数にバラツキが見られるが、意欲的に研修に参加している。

【市ADの県所管研修参加数】

実施市	回数	前年比
大館市	4	+2
男鹿市	6	-6
横手市	8	+1
潟上市	5	+2
仙北市	9	+3
大仙市	5	+2
にかほ市	3	-

R3.4~R4.3

エ) 教育・保育アドバイザーの地域での活動の実践から学ぶ

他市アドバイザーの園訪問の実際を参観し、園や保育者との関わり方や指導・支援方法について学ぶ機会として実施。

【市アドバイザーに学ぶ研修会】

期日	場所	主な内容・参加者
10月1日(金)	社会福祉法人育堂会 雄物川保育園	【中止】
10月6日(水)	大館市立たしろ保育園	【中止】
10月12日(火)	男鹿市立船越保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD5名、県AD、県指導主事各1名
10月26日(火)	潟上市立昭和こども園	保育参観・担任との振り返り・アドバイザー会議 市AD1名、県AD、県指導主事各1名
11月11日(木)	仙北市立角館こども園	保育参観・担任との振り返り・副園長との振り返り・アドバイザー会議 市AD4名、県AD1名、県指導主事3名
11月12日(金)	社会福祉法人大曲保育会 はなだて保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD4名、県AD1名、県指導主事3名

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・毎回、他市の取組に触れたり、お話を聞いたりすることでとても勉強になっている。
- ・園との信頼関係の構築を図ったことや園の課題に沿って、アドバイザーが支援の工夫をしてきた経緯を聞くことができ、参考となった。
- ・副園長と振り返りをすることによって、園全体の資質をあげていくことにつながっていくということを実感した。



園内研修の前に協議の柱について話し合い
(はなだて保育園)

(2) 市主催研修会の支援

市の課題や園のニーズに応じた研修会を主体的に企画・運営できるように、市の要請に可能な限り対応し、県からの指導者(県指導主事、幼保指導員、県アドバイザー等)を派遣し、市主催研修会を支援。

保育実践や市の課題に応じた研修会、人材育成に関する研修会などでの活用があった。身近な地域での研修会の開催は、保育者にも好評である。特に今年度は、コロナ禍で県主催の研修会は、ほとんどがオンラインでの開催となったが、市主催研修会は身近なところで集合型・対面で行うよさがあった。

(参考)市主催研修への指導主事等を派遣した研修会

市	研 修 会
大館市	幼保小連携推進会議、幼保小担任合同研修会、ファシリテーター研修会 2回、5歳児研修会
男鹿市	全体研修会、ミドルリーダー研修会、市就学前・小学校合同研修会、保育実践力向上研修会（3回）
横手市	市幼小合同研修会
潟上市	就学前・小学校潟上市合同研修会、公開保育研究会、「保育の記録の大切さ」研修会、「子どもの人権の尊重と保育」研修会（中止）
仙北市	ファシリテーター研修会 3回、合同研修会（中止→資料配付）、乳児保育研修会
大仙市	保育実践力向上研修会 2回、就学前・小学校大仙地区合同研修会（オンライン）
にかほ市	市研修会（就学前教育と小学校教育の円滑な接続）

【実施市における教育・保育アドバイザーの活用、研修会の実施状況】

ア) 推進体制（各市の状況、政策決定、周知方法等）

市	対象施設数 a 幼 b 保 c 幼保 d 他	a 指導者の配置 b 外部指導者の活用	実施理由 目指す方向性	政策決定者 a 政策の決定者 b 決定の過程	内容の周知	市AD活用 促進の工夫
大館	a. 1 b 公 9 私 1 c 私 8 d 16	aH21 福祉課に保育 AD 配置 H28 教育委員会に市 AD 配置 b 県の指導者、市 ADを継続活用	教育・保育の質 の向上 教職員の専門 性向上 小学校教育と の円滑な接続	a 市教育委員会 b 市福祉部局と 市の課題を共 有し協議	小中学校長 会、各園長 会、研修会、 園訪問時の指 導等で周知	リーフレッ トやお便り 「ミニ公開だ より」での周 知
男鹿	a 私 1 b 公立 7 d 1	a H28 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続 活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	市担当者と園 長会議で周知	園長会議で 基本の活用 方法決定
横手	a 私 4 b 公 8 私 19 c 私 2 d 7	aH28 に市 AD 配置 R1 市指導主事配置 b 市の指導主事が 在籍。県の指導者 の活用は多くない		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協 議	独自広報紙発 行や施設訪問 時による周知	広報紙「よこ てのめんこ」 配付
潟上	a 公 1 私 1 b 公 3 c 公 3 d 7	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継 続活用		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協 議	市担当者と園 長会議で訪問 周知	毎月の園長 会議で活用 の基本確認
仙北	b 公 3 c 私 5 d 3	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続 活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	園長会議や園 訪問での周知	訪問を通じ 基本的な活 用を周知
大仙	b 私 15 c 私 9 d 3	aR1 に法人から派遣 の市 AD 配置 R2 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続 活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	周知パンフレ ットの配布や 施設訪問時 による周知	AD 派遣事業 実施要項の 周知
にかほ	b 私 5 c 私 4	aR3 に市 AD 配置 b 県の指導者を継 続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で 協議	園長会議や園 訪問での周知	訪問を通じ 基本的な活 用を周知

イ) 市アドバイザー訪問回数と訪問実施率

	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市	にかほ市
R1 実績(回)	112	96	322	96	138	—	—
R2 実績(回)	217	131	682	149	282	117	—
R3 目標値 (回)	283	116	500	93	243	184	160
R3 実績(回)	189	105	548	143	226	115	47
R3 実施率(%)	66.7%	90.5%	109.6%	153.7%	93.0%	62.5%	29.3%

○コロナの発生状況において、計画通りにいかない市も見られた。訪問の際には、目的を明確にすることで継続的な園や保育者の支援がなされている。

○計画的に、園の訪問がなされていることが、園や保育者と市アドバイザーとの信頼関係構築に効果を生んでいる。

ウ) 市アドバイザー訪問内容

市	園内研修	保育公開	個別相談	実態把握	周知活動	県と同行	その他
大館	25.4(27.6)	1.5 (0)	5.4 (11.5)	14.8(3.7)	31.7 (40.6)	6.4 (9.2)	14.8 (7.4)
	-2.2	+1.5	-6.1	+11.1	-8.9	-2.8	+7.4
男鹿	30.8(41.6)	7.1(1.7)	36.1(35.9)	14.4(5.2)	6.5 (4.6)	1.4 (2.6)	3.7(8.4)
	-10.8	+5.4	+0.2	+9.2	+1.9	-1.2	-4.7
横手	12.2(7.0)	2.5 (0)	2.5 (11.8)	1.5(8.8)	67.9 (70.0)	0.8 (0.5)	12.6 (1.9)
	+5.2	+2.5	-9.3	-7.3	-2.1	+0.3	+10.7
潟上	29.5(25.5)	7.1(6.6)	26.9(43.4)	2.6(6.1)	15.4(10.2)	3.8(5.6)	14.7(2.6)
	+4.0	+0.5	-16.5	-3.5	+5.2	-1.8	+12.1
仙北	29.4(12.9)	7.9(7.3)	23.1(32.3)	17.2(20.1)	10.6(16.5)	2.9(2.3)	8.9(8.6)
	+16.5	+0.6	-9.2	-2.9	-5.9	+0.6	+0.3
大仙	3.1(6.1)	0(0)	25.0(21.3)	25.9(20.3)	10.7(13.7)	8.1(9.7)	27.2(28.9)
	-3.0	0	+3.7	+5.6	-3.0	-1.6	-1.7
にかほ	14.1	2.8	34.9	35.9	6.6	3.8	1.9

[上段：R3 年度(R2 年度)の% 下段：前年比]

エ) 地域で学び合う機会の充実、園や市町村を越えた研修会開催

【実施市での研修会の開催数と参加者】

	大館	男鹿	横手	潟上	仙北	大仙	にかほ	計
開催数 (回)	20(31)	8(9)	15(1)	8(9)	8(9)	3(2)	1	63(61)
前年比	-11	-1	+14	-1	-1	+1		+2
参加者 (人)	1019(735)	116(173)	253(29)	105(140)	145(182)	86(44)	14	1738 (1303)
前年比	+284	-57	+224	-35	-37	+42		+435

[上段：R3 年度 (R2 年度)の実数 下段：前年比 (回数、人数)]

【分野別研修会開催数】 [上段：R3年度の回数（参加者数）、中段：R2年度、下段：R2年度比]

市	市全体	課題別	キャリア ステージ 別	担当年齢 ・職種別	公開保育	その他 (幼小研修 会他) ※	開催数 (参加者)
大館	-	8(208)	-	4(114)	4(89)	4(608)	20(1019)
	-	9(301)	4(120)	-	-	5(314)	31(735)
	-	-1(-93)	-4(-120)	+4(+114)	+4(+89)	-1(+294)	-11(+284)
男鹿	1(34)	-	1(7)	3(31)	2(30)	1(14)	8(116)
	1(56)	-	2(29)	3(28)	3(60)	-	9(173)
	0(-22)	-	-1(-22)	0(+3)	-1(-30)	+1(+14)	-1(-57)
横手	-	1(34)	-	1(27)	-	13(192)	15(253)
	-	1(29)	-	-	-	-	1(29)
	-	0(+5)	-	+1(+27)	-	+13(+192)	+14(+224)
潟上	-	-	-	2(31)	4(34)	2(40)	8(105)
	2(30)	-	-	-	6(98)	1(12)	9(140)
	-2(-30)	-	-	+2(+31)	-2(-64)	+1(+28)	-1(-35)
仙北	-	4(74)	-	4(71)	-	-	8(145)
	-	4(75)	2(20)	2(32)	1(55)	-	9(182)
	-	0(-1)	-2(-20)	+2(+39)	-1(-55)	-	-1(-37)
大仙	-	1(23)	1(24)	-	-	1(39)	3(86)
	-	2(44)	-	-	-	-	2(44)
	-	-1(-21)	+1(+24)	-	-	+1(+39)	+1(+42)
にかほ	-	1(14)	-	-	-	-	1(14)

※その他：幼小接続に関する研修会・事業、市内研究発表会等

○市主催の研修として、様々なニーズに対応した研修の開催を目指している。毎年同じ内容ではなく、前年度の反省を生かし、各市で実態やニーズ等に応じた様々な研修会を企画している。

○今年度も、コロナ禍のため、予定通り行うことができなかった市が多かったが、参加人数を少なくしたり、オンラインで行ったりするなどできる限り実現できるよう、工夫していた。幼小合同の研修会を市主催研修として各市で実施できるよう、県でも支援をしながら開催した。

○地域で学び合う研修会となるよう、近隣市町村への研修会・公開研究会への参加の呼びかけを進めているが、今年度も市町村の行き来が制限され、広域での研修会とはならなかった。

4 成果と課題 (○成果、●課題、◇改善の方策)

(1) 教職員の専門性の向上

① 「保育士等が習得すべき資質・能力ガイドライン」の完成・周知

○素案作成から、ワーキング会議での協議を経て、3年間目の今年度、秋田県教職キャリア協議会（6/2、10/19）で審議いただき「秋田県教職キャリア指標(保育者)」が完成。素案段

階から多くの有識者(養成大学)や就学前教育・保育施設関係者に協力いただくことができた。

年次研で活用している「自己到達目標評価表」も指標の完成とともに、整合性を図って修正できた。

◇各園での積極的な活用、個々のキャリアに応じた目標設定の指標として実践に生かせるよう、園訪問や研修の機会に周知していく。

②保育者の専門性向上を図る研修機会の提供

○絶対研修を中止にしないことを鑑み、全ての研修開催においてオンラインに切り替えられるよう企画・運営の段階で準備したことによって、予定していた研修をほとんど実施することができた。運営側も受講側もオンラインでの研修に慣れ、グループ協議等も実施できた。

研修機会を無くさないよう組織的に対応できた。

○園内研修リーダー養成講座の受講者は、オンライン開催となったが、他園に学ぶ研修では主体的に他園に足を運び学んだり、自園で研修を実践したり主体的な学びへの一助となっている。

●令和3年度はほぼオンラインでの研修提供であったため、演習・協議・情報交換等に制限があることから、少人数対象での開催や分散開催など、方法の見直しや手立ての工夫が必要。

◇集合型、オンライン型いずれでも内容の充実が求められる。特にオンライン型では、講義中心とならないよう改善を図っていく。

(2) 教育・保育推進体制の拡充

①「就学前教育推進協議会」の開催

○実施市も含め、県内17市町村の就学前教育・保育行政担当者(教育委員会・福祉部局)に参加していただくことができた。「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について、どのように捉えているか」「どのように具現化していけばよいのか」様々な立場から協議いただいた。小学校や園任せでは難しく、行政の支援や、行政と一体となった取組が必要であるとの意見が出された。また、そもそも乳幼児理解がどう図られているのか、その根本理解の重要性について座長から提言があった。市町村行政担当者の意識付けという意味で有意義な場となった。

●円滑な接続を図る上で、行政の後押しが大切だが、保育の質の面で理解が進んでいない市町村も見られた。現場任せになっている様子が感じられたり、部局間連携が図られていなかったりしており、そうしたところを県も支援しつつ改善を図る必要がある。

◇令和4年度は、国の幼児教育スタートプランや架け橋プログラムを踏まえ、様々な関係機関や保護者、園や小学校職員など、広く理解啓発を図ることに関連した協議会の実施を計画していく。

②事業内容の発信

○アドバイザー未配置市町村の教育委員会及び福祉部局担当者を訪問し、県の構想の説明の他、市町村の就学前教育・保育推進体制の実態や質の維持・向上のための取組等、今後の見通しなど伺った他、訪問できなかった市町村とはオンラインで会談し、実態の把握や県への要望確認など、有意義な機会を持つことができた。

●一部訪問も会談も設定できなかった自治体もあった。

◇次年度は、訪問や市町村支援の機会に全市町村の教育委員会及び福祉部局との関係性を構築しつつ、幼児教育推進体制の充実、活用強化のための理解啓発を図る。

③事業内容の評価・分析

○実施市への事業に係るアンケート調査の実施により、アドバイザー配置の効果や質の向上のための課題をつかむことができた。

●アンケート調査結果をより効果的に活用するため、分析から反映まで見通した実践が必要。

◇どのレベルの質の向上を目指しているのか、評価指標の明確な設定をしていく。

(3) 市教育・保育推進体制の支援

①市教育・保育アドバイザーの育成

ア) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催

- 本会は、県教育・保育アドバイザーのコーディネートにより、具体的な保育者への指導・助言、園内研修への支援方法等を考える機会となっている。他市の取組状況の共有や共通課題について情報交換するなど、ネットワークの構築に寄与している。
- 他市アドバイザーの園訪問に同行し「他市に学ぶ研修会」を企画・実践しているが、コロナ禍で人数制限したり、感染拡大のため中止とした会があった。
- ◇アドバイザー育成の重要な協議会である。令和4年度はアドバイザー未配置市町村の就学前教育・保育施設に関わる担当者も協議会に参加いただくなど、一層のネットワークの構築を図っていく。

イ) 市主催の研修会の支援

- 市主体の企画・運営で、様々なキャリアに応じた研修の充実、機会提供が図られている。市が現場の実態や要望を踏まえ、計画的に実践している。県は研修講師や助言者として市からの要請を受け支援するスタイルが定着してきている。
- 事業実施市で主催研修の内容や機会が充実していく一方、未配置市町村への県からの支援に偏りがある。
- ◇次年度は、県の支援策としてアドバイザー未配置市町村の主催研修への支援を拡充するなど、近隣地域を巻き込んでの市町村と連携した一体的な研修支援の実施を目指す。

②県と市の連携による園の重層的支援

- 県指導主事等の園訪問に市アドバイザーが同行する他、市内全園を巡回訪問するなど、園や保育者のよき課題等を共有し、同一の方向性で継続的な支援を心がけている。
- 園は、組織的・計画的な研修の推進やファシリテーションに関する指導を県指導主事等に依頼し、その指導の視点を基に市アドバイザーが園内研修支援を継続支援し、保育改善等につなげている。
- アドバイザー未配置市町村の園支援が年1回に限られているため、アドバイザー配置市との支援格差が出ている。
- ◇次年度は、計画訪問・認定こども園訪問・要請訪問の他、複数回の園支援が可能となるよう県の園支援策実施し格差解消を図るとともに、保育改善や質の向上につなげる。

実施市の具体的な取組 (大館市)

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。
- (2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、教育・保育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。
- (3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

子どもたちの将来の自立を見据え、ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学

年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、それに関わる保育者・教職員が子ども理解のあり方を教育、保育の指導や援助等について共通理解を図り、連携を推進する。

【重点】

6年間の幼児教育センター機能の成果と課題を検証し、次年度からの指導体制や研修会の内容や運営を再構築する。

【実施内容】

(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○ 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化

① 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導

- ・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進
- ・各園の要望に応じた訪問、研修への支援
- ・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月1回)
- ・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月1回)
- ・小学校授業研究会への参加

② 共同開催事業の実施

- ・ことばと学びの小テスト(各小学校1回)～小学校1年生の児童対象に子ども課と小学校の通級指導教室が中心となって実施。就学後の学習の困難さを早期に気付き、自校での個別指導、通級指導教室、必要に応じて諸検査につなぐために1学期中に実施。
- ・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3月)～入学前の集団生活での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。
- ・満5歳すてっぷ相談(年間12回)～就学を見通し集団への不応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」についての保護者への啓発のため、満5歳を迎えた年中児とその保護者を対象に検査・観察・講話・相談を実施。その子育て講話「小学校に入るまでにできてほしいこと」を教育委員会が担当。
- ・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施

○ 「育ちの教室ぐんぐん」、「満5歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、要検査児の早期発見と発達検査・心理判定の実施、在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。

○ 教育委員会主催の研修会への保育士等の参加や発表者が増えており、幼保小の育ちや学びについての共有が図られている。大館市教職員夏季研修会(8/3)・教職員実践発表会(1/7)

③ 研修会の実施

〈市主催研修会〉

- ・幼保小連携推進会議(5/17)
- ・保育補助研修会(5/31)
- ・幼保小担任合同研修会(6/1)
- ・ファシリテーター研修会Ⅰ基礎編(6/4)
- ・保育実践研修会(7/8)
- ・発達支援セミナー(8/23 中止)
- ・ファシリテーター研修会Ⅱ応用編(9/15 中止)
- ・主任等研修会(10/19)・5歳児研修会(11/25)
- ・園長等研修会(1/24)



【幼保小担任合同研修会での協議】

○研修内容についてアンケートを実施し、希望が多いもの、必要性の高いものを実施したことで多くの受講者があり、保育の質の向上につながっている。
 △週日案や指導案の作成についての研修の要望が増えており、次年度の実施を考えている。
 今年度は、訪問指導により実施している。

※研修の詳細は(3)(4)に記載

(2) 教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

- ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置
- ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（大館市）

⑥派遣実績 計52施設/全52施設 189回	
回数	・幼稚園：私立1園（3回） ・保育園：公立10園（86回） ・幼保連携型認定こども園：私立8園（16回） ・その他の施設：（へき地保育所7園（32回）児童館0か所（0回）、地域型保育施設2か所（5回）、認可外保育施設2か所（6回）、事業所内保育施設5か所（7回）） ・小学校：17校（34回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、26園（84回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（5回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、15園（18回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、49園（49回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、52園（105回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、21園（21回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、17校（34回））
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に研修支援のための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員との相互理解のために幼保小との連携を図る。

○アドバイザーの役割や活用方法が周知され、訪問を希望する園が増えている。

○園内研究の計画や、子どもの育ち・読み取りの共有方法、研究協議の進め方等への支援を希望する園が増えている。より具体的な助言により園内研修が深まるよう努めている。そのことにより、どの園でも研究への主体的な取組と深まりが見られるようになってきた。

△認定こども園への訪問が課題。要請訪問への同行、毎月の連携だより配信の他にも、連携だよりの記事の取材等で訪問回数を増やしていきたい。

(3) 専門性の向上のための研修の充実

① 市主催研修会の開催

◇保育補助研修会（5/31） 初めて就学前教育保育施設に勤務した職員対象 22名参加
 内容「保育に向かう姿勢について」保育者としての基本的な態度やマナーについての講話後グループに分かれて、具体的な事例についてのワークショップを行った。

講師 前大館市福祉部子ども課 課長補佐兼保育アドバイザー 工藤英子氏

○各園から最も要望が多い研修である。グループでのワークショップを行ったことにより、保育補助としての役割だけでなく、日頃の不安や悩みなどを出し合ったことや他園の状況を聞いたことが大変参考になったという感想が多く、好評であった。

△次年度も開催したいが、グループ協議の事例をさらに工夫したい。

◇ファシリテーター研修会Ⅰ（基礎編）（6/4） 各園のリーダー・主任等対象 40名参加
 内容「SOAPの視点」の理解、ファシリテーターの役割、KJ法の演習

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 武石郁子氏
 ○例題の子どもの姿から「どこに楽しさを感じているか」や「育っている力は何か」を読み取り子ども理解を深めていた。
 ○SOAPの視点で付箋に記入し模造紙を4段に分けてまとめた方法を自園でも同じように実践したいという感想が多く、実践に生かせる研修であったと言える。
 △SOを整理してAPにつなげる段階に難しさを感じている参加者が多かった。訪問での助言に生かしたい。

◇保育実践研修会 (7/8) 新規採用者から11年目保育経験者対象 26名参加

内容「伝承遊び」「絵本の読み聞かせ」「ふれあい遊び」「手作りおもちゃ」のワークショップでの実技研修
 講師 大館市公立保育園主任



【お気に入りの絵本の紹介】

<アンケートより>

- ・伝承遊び～初めて知る遊びもあった。保育士が遊びをたくさん知っていることが子どもの遊びを広げることにつながると思う。保育にもっと取り入れて次世代に伝えたい。
 - ・絵本の読み聞かせ～絵本は、読み聞かせだけではなく、園が保護者に気付いてほしいことを絵本を通して伝えることができる。絵本のもつ無限の可能性を感じ様々な場面で活用したいと思った。
 - ・ふれあい遊び～手遊びやふれあい遊びを通してたくさんのスキンシップを図り、子どもとの信頼関係を図りたい。
 - ・手作りおもちゃ～子どもたちが自分でおもちゃを作り、競い合ったり遊び方をさらに工夫したりする楽しさを体験できると感じた。自分の保育に取り入れていきたい。
- 昨年度も好評であり引き続き開催した。若年層を対象としたが、その後の訪問で学んだことを自分なりに保育に取り入れている姿を見ることができた。

◇発達支援セミナー (8/23) 看護師・保育士・サポーター対象(コロナ感染対策のため中止)

内容「ティーチャーズトレーニング」～発達障害にも周りの子にも有効な支援～
 講師：秋田県立比内支援学校 特別支コーディネーター 加藤弘子氏

◇ファシリテーター研修会Ⅱ(9/15) (応用編) 基礎編参加者対象(コロナ感染対策のため中止)

内容「SOAPの視点の活用」
 講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 武石郁子氏
 ・前回の研修会応用編(6/4)に、自園での実践、またその成果と課題をまとめることが宿題となり、実物や写真等を持ち寄り発表することになっていたが、コロナ感染対策のため中止となる。園訪問時、研究の実践についてアドバイスをを行うことにした。

◇主任等研修会 (10/19) 主任等 27名参加

内容「保育の課題に向けた主任等の役割」
 講師 釈迦内小学校 校長 花田一雅氏

<アンケートより>

- ・リーダーとして、自分はどのように役割を果たしていけばよいか見つめ直すよい機会となった。自身が新しい情報を職員に広めて共有することで園全体のレベルアップにつなげたい。
 - ・協同的な作業を通して、子どもの気持ちになりチームで協働する楽しさを体験できた。
- リーダーとしての自分を振り返り、目指すリーダー像に向かって前向きに役割を担っていきたいという感想が多かった。



【マシュマロチャレンジ】

△来年度は、指導案の各年齢のねらいについての演習を考える。

◇5歳児研修会 (11/25) 5歳児担任 30名参加

内容「就学を見通した5歳児後半の保育について・保育要録について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事庄司伸子氏、指導主事武石郁子氏

<アンケートより>

- ・5歳児の現状を改めて確認できた。また、今のクラスの様子を改めて書き出し、他園の先生と情報交換をしたことで就学に向けて目指す子どもの姿の見直しもできた。
- ・何度年長を経験しても、要録の記入の仕方は迷う。今回のように実際に記入してグループで見合うことがとても参考になった。
- ・何年ぶりの5歳児担任で、要録の書き方も変わっていたので、具体的な記入の演習ができとても参考になった。

○要録の記入について、グループでの演習が効果的であった。

△毎年実施している研修会であるが園や保育者のニーズを明確にして講師に伝える必要がある。

◇園長等研修会 (1/24) 園長・主任等 35名参加

内容「大館市の学校教育の現状を踏まえ、系統的な連携を持つための施設長の役割とは」

講師 大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子氏

<アンケートより>

- ・大館市が教育委員会と子ども課、関係機関とつながり子どもの育ちを支えていることを改めて実感した。
- ・個別の支援計画が統一されることはありがたい。この機会に職員間で共通理解を図り取り組み、小学校につなげたい。
- ・メディアコントロールについては園でも課題として捉えている。家庭教育支援としてなんとか実践していきたい。



【山本教育監の講話】

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催

大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立保育園9園の保育を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者が自園の研究に生かせるようにした。また、小学校の教職員も参加できるように、夏季休業日に開催した園が多かった。しかし、新型コロナウイルス感染対策のため、参加者は各園1名に限定したり警戒レベルが上がったことにより中止した園もあったりした。中止した園にはアドバイザーが訪問し、保育や研究実践についてのアドバイスを行った。

◇城南保育園 (8/5) 小学校長、関係者評価委員ほか、就学前施設職員 17名参加

<アンケートより>

- ・保育者が気持ちにゆとりをもって子どもと接している姿が印象的でした。子どもにすぐに注意したりせずに、時には様子を見ながら子どもと一緒に考えながら知らせていきたい。

◇東館保育園 (8/11) 小学校教頭ほか、就学前施設職員 15名参加

<アンケートより>

- ・自然の中でのびのびとたっぷりと水、砂、虫、仲間とたわむれる子どもたちの姿が最高だった。
- ・年齢によって子どもと保育者の関わり方や距離の取り方が違い、子ども同士の関わりを大切にしていることが分かった。



【ミニ公開保育5歳児の遊び】

◇西館保育園 (8/12) 小学校校長、関係者評価委員ほか、就学前教育・保育施設職員 15名参加

<アンケートより>

- ・園庭や保育室の構成や先生方の共感的な関わりにより、一人一人が主体的に自由に遊べる環境になっていた。

◇たしる保育園 (12/10) 小学校校長、教諭、関係者評価委員ほか、就学前施設職員 15 名参加
 <アンケートより>

- ・園内・園庭がとても広く、活発な遊びが多い。子どもたちがとても楽しそう。広い敷地を生かした遊びが、各年齢、発達過程に合わせて展開されていた。

※その他 5 園はコロナ感染対策のため中止

○ミニ公開保育を参観することで、自分の保育の方向性を考えたり環境の構成の参考にしたりしようとする前向きな声が多かった。

△小学校の校長、教頭だけでなく教諭の参観も増えてきたが、さらに増やしたい。

△来年度は、基幹保育園以外にもミニ公開保育を提供してくれる園を増やしていく。

●新型コロナ感染対策のため研究協議への参加ができず。日程についても今後検討が必要。

③ 基幹保育園 (5 園) 主催の研修会：オーダーメイド研修会

- ・園長会で研修会内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにした。

実施園	実施日	内 容	講 師	参加者
たしる保育園	7/30	「子どもの事故防止」～子どもの特性や考えられる事故とその予防	日本赤十字社秋田県支部 稲岡 一枝氏	27
有浦保育園	11/16	「すぐ活用できる！新聞紙で作るカバン」	秋田魁新報大館販売所 阿部 美菜子氏	13
城南保育園分園	12/2	「子どもの発達と遊び～卒園までに育てたい力～」	大館市福祉部子ども課巡回支援専門員 畠山佳子氏	32
城南保育園	12/22	救命救急～AED の使い方と実技～	大館市消防署職員	22
扇田保育園	2/1	「折れない心の育て方」	ファミリーネットワーク 代表 村岡 昇氏	28

○各園ともに、保育者のニーズに応じた研修が実施できている。

④ へき地保育士会研修会 (6/10) へき地保育士等 20 名参加

内容 「日誌の記入について」 持参した日誌をみながらの勉強会

講師 市教育・保育アドバイザー

○SOAPの視点での記録と日誌の記入への活用について理解を深めることができた。

○園訪問、要請訪問以外にへき地保育所独自での研修会開催は、大きな成果である。

(4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

① 就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

◇小学校の授業参観・保育参観・交流

- ・たくさんの小学校で園の先生方による 1 年生の授業参観が実施されている。1 学期の早い段階で、授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、PTA 授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。秋に授業参観を計画している学校では、先生方だけでなく、年長児も参観するという試みも始まった。保育園側からは、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待している園が多い。

- ・子ども同士の交流も大変多く、農作業に園児を招いて一緒に活動する交流や、生活・総合の時間に保育園を訪問する交流も計画されている。また、連絡協議会を組織している学区では、園児・児童 (・生徒) のめざす子どもの姿や共通実践事項を話し合っている。学区の子どもの育ちを保・小 (・中) で、また、地域とも共有しながら取組を決めて実践している。



「授業で子どもが困った時に、先生がよく見ていてアドバイスをしたり友達に聞いてカバーしてもらっている様子がとてもよかったです。保育園でも、困った時には先生や友達に相談したり助けを求めたりできるように育てていきたいと思いました。」
〈1年生の授業を参観した保育士の感想〉

【保育者による授業参観】

- 入学前の早い段階で1年生の授業を参観し話し合うことは、入学後の1年生の適応状況について情報交換したり子どもの育ちを共有したりして今後の支援に生かす上でも大変有効であった。また、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの見直しにもつながっている。
- 保育園の保育の参観に、校長、教頭、1年生の担任だけでなく、全職員が参加するところや、その後の研究会にも参加する小学校が増えてきた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解のために有効な実践である。
- △夏休みに実施する園のミニ公開に小学校の先生方を招待する予定の園が多かったが、コロナ感染対策により中止になった園もあり残念であった。次年度は、年間を通してなるべく多くの教諭が参観できる計画を考えてもらう。

◇幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月1回）

- ・大館市の全就学前教育・保育施設(35施設)のほか、小学校、北教育事務所、市教育委員会、子ども課に配布。
- ・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、「大館の保育・教育を語る」の連載、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修・訪問の実施状況、感想等を掲載している。
- ・保育と教育双方の理解を進めるための特集として「発達・学びをつなぐスタートカリキュラム」の実践例、「『10の姿』で考える幼保小のつながり」などを特集した。
- 園と小学校との交流、小学校職員の保育参観、研究協議への参加、幼保小連携便りによる情報提供等により、小学校職員の保育への理解が深まってきている。
- △他地区の連携だよりを参考にして、さらに見やすい、読みやすい紙面の構成を心がけたい。また、特集記事は、保育・教育現場のニーズに合わせたものを作っていきたい。

② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

◇幼保小連携推進会議（5/17） 幼保主任・小学校教頭 51名参加

「育ちや学びの連続性を踏まえた円滑な接続について」

秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 武石郁子氏

「大館市の早期からの教育相談・支援体制の取組について」

大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子氏

「今年度の連携計画について」各小学校区毎のグループ協議

- 「円滑な接続に関するチェック表」を基に話し合いを進め、これまでにしていなかった取組を計画する学校区が多く、連携の意欲の高まりを感じた。

◇幼保小担任研修会（6/1） 年長児、小1担任 53名参加

「円滑な接続のためのスタートカリキュラムについて」

秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 武石郁子氏

「大館市の学びの接続のための推進『ことばと学びの小テスト』について」

大館市立扇田小学校 通級指導教室担当教諭 松村和子氏

「今年度の連携の具体的な取組」各小学校区毎のグループ協議

- 学区毎の協議では、担任同士で子どもの情報交換や交流の具体的な計画案が活発に話し合われた。年長児による小学校の授業参観や園の研究協議への参加、小学校教諭による夏休みの保育体験など、新しい取組もあった。

◇大館市教職員夏季研修会 (8/3) 就学前全施設職員・小・中・高・大学教職員 70名参加
「発達障害のある子どもへの支援と保護者対応について～相談支援の実践から～」

秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田 相談員 大越杏沙氏

- 社会人としての安定した生活のためには、幼児期からの自己理解や適切な支援が大切であることを就学前施設職員と小・中・高の教職員とで共有することができた。

◇大館市教職員実践発表会 (1/7) 就学前全施設職員・小・中学校教職員 434名参加

- 就学前施設からも乳児保育園と認定こども園の2つの実践発表があり、小・中学校の教職員もその分科会に参加し、保育への理解を深めた。

(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携

◇ 県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

- ・園長等運営管理協議会(5/27) ・就学前・小学校等地区別合同研修会(7/29)
- ・キャリアアップ研修マネジメントⅠⅡ(9/17, 11/19) ・教頭・主任等研修会(11/2)
- ・教育・保育AD連絡協議会(4/28, 6/17, 8/26, 10/14, 12/22)
- ・県就学前教育推進協議会(11/26) ・県アドバイザーによる支援訪問(12/14)

- アドバイザー研修では、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方などを学び、本市の事業に生かすことができた。

◇ 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化

- ・北教育事務所指導主事等との打合会の開催(年2回)
- ・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(23施設)

<具体的な連携>

- ・北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
- ・市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案について事前に確認し、各園に助言、訂正依頼をする。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容を確認。
- ・同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有する。

- 要請訪問に至るまでの過程について幼保推進課・北教育事務所指導主事と役割分担をすることで、アドバイザーの行うことが明確になった。

- 県による教育・保育アドバイザー等の研修や、県教育庁北教育事務所要請訪問への同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながり、園訪問での助言に生かすことができた。

- 北教育事務所指導主事の協力を得て要請訪問の総括を連携便りに掲載することができ、全園で成果と課題を共有できた。

- △各園の研究内容や指導案への助言は、4～5月中に日程を調整し、できれば要請訪問前に行いたい。指導主事と連携し、園長会、主任会等でも作成のポイントについて説明したい。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R元～R3)の成果と課題

- 県や市主催の研修会が定着し、多くの受講者がある。県や市の目指す教育・保育のあり方が周知されてきている。また、様々な研修会や園長会等、主任会等で市アドバイザーの業務内容やメリットを伝えてきたこと、早い段階で園内研究に取り組める体制を構築してきたことで、毎月の園内研究に市アドバイザーの継続的な支援を求める保育園が多くなりその効果を実感している。

- 市主催の各研修会や実践発表会等の講話等により、就学前教育の教育・保育の在り方、保育と小学校教育の内容や育ちをつなぐ組織やツールが示され、大館市の目指すところが明確になった。
- 公開保育研究会や各園の要請訪問等には、小学校の教職員はじめ、近隣の園からの参加も増えてきている。開かれた園づくりと公立・私立、設置形態を越えた学び合う関係性ができつつある。
- 幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会の申込率が100%となり、全小学校、全園が必要性を認識していることが分かる。小学校教諭からは、「就学前に蓄えてきた経験が生活科をはじめとする各教科の中に生かされていると感じる」ということや、「園で『聞く・話す』姿勢が育てられていることが小学校の学び合いの授業を支えていることを実感している」などの成果が伝えられている。成果を互いに共有することが、さらなる連携の意欲につながっている。
- △小学校教諭の保育参観や研究協議への参加が増えることで幼保小の連携がさらに強まると思われる。各小学校への呼びかけを見通しをもって進めていきたい。また、「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として参観したり、育ちを語り合ったりすることができるように、小学校教諭の理解を深めるための手立てをさらに工夫していきたい。
- △認定こども園へは連携便りの取材等で関係性を高め、訪問回数の増加につなげていきたい。
- △僻地保育所は園児数の減少により集団としての保育の質が保たれていくのか心配なところもある。保育の他、所の運営や研究、職員の育成の悩み等への助言の機会を増やしていきたい。
- 新型コロナ感染防止のため、近隣の市との交流や情報交換がほとんどできずにいる。来年度の課題である。

実施市の具体的な取組（男鹿市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。
- (2) 市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

教育・保育アドバイザーを2名配置し、円滑な幼保小接続のための就学前教育の質的向上を図るため、市内就学前施設への巡回指導・助言を行う。

また、市内就学前施設等の職員研修会、公開保育研究会における指導・助言を行う。

公開保育研修会の実施を核とした学び合う体制づくりを構築する。

研修会等への参加によりアドバイザーとしての専門性の向上を図る。

【重点】

- ・公開保育研究会等による地域で学び合う体制づくり（令和2年度からの継続）
教育・保育の専門家を活用した研修会等の継続実施により、キャリアステージに応じた人材育成を目指す。
- ・小学校への円滑な接続・事業の拡大を実現する。

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

①教育・保育アドバイザーの配置

- ・円滑な幼保小接続のための就学前教育の質的向上を図るため、市内就学前施設への巡回指導・助言を継続
- ・訪問指導により、各園の保育指導、園内研修支援、研修リーダー育成、保育者の面談によるきめ細かな指導助言を実施

②各種研修会の実施

- ・保育者の専門性の向上を図るため、各種研修会を実施
保育実践力研修、全体研修、キャリア別研修
- ・接続期の重要性の認識を共有するために教育委員会との連携を図り、就学前・小学校等合同研修会を開催

③公開保育研究会

- ・保育の公開を通して、各園の課題を明確化し、施設間での交流体制の構築、市内施設や小学校を含めた近隣市町村の枠を越えた地域で学びあう体制を構築
若美南保育(6/18:中止)、玉ノ池保育園(9/22)、いづみ幼稚園(7/1)
※若美南保育園は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、2園の公開保育は予定通り実施したが近隣市町村からの参加は見合わせた。

(2)「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・教育保育アドバイザーによる私立幼稚園、保育園等の訪問指導により、各園の保育指導、園内研修支援、研修リーダー育成を実施
- ・面談対象を主任、副主任、リーダー保育士、異動職員、新規採用職員等とし、きめ細かな指導助言を実施
- ・保育参観と保育の振り返りや園内研修と研修の振り返りをその都度行い、保育の見方や考え方、環境の構成や保育者の援助などについて、自ら気づいたり職員全体で考えたりすることができるように丁寧にわかりやすく伝えていく。

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（男鹿市）

⑥派遣実績 計15施設／教育保育施設全9施設 小学校6施設 105回	
回数	・幼稚園：私立1園（15回） ・保育園：市立6園（69回） ・保育所型認定こども園：市立 1園（12回） ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回） ・小学校：6校（7回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、8園（49回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、3園（20回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（78回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（42回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（24回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、7園（6回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（9回） ・特別支援訪問（実績のうち、8園（6回）
理由	派遣目標として、各園月1回以上訪問し、保育実践や園内研修等の指導や助言を行い、保育力の向上を図る。事業所内保育へも訪問し保育や環境等の状況の把握に努める。入学する小学校へも訪問し、連携の理解を進める。

- 園や保育者の様々な悩みを一緒に考えていくことで自分の力で解決ができるようになってきている。
- 自分の保育を深く考えるようになり、「発達」や「子どもにとって」を意識した保育をしている。
- 園内研修では、自分たちが明らかにしたいことを共通理解しつつ、自分の思いや考えを発信する姿勢が見られる。
- 保育の質や保育実践力の個人差が大きいいため、子どもの「発達」や「主体性」、子どもの経験していることの「意味」や「価値」などを一緒に考えていくことができるように今後も保育提供後の振り返りの時間が必要である。

△園内研修では、毎回話し合った内容をまとめて完結という方向に進みがちである。更に研修が深まっていくために、話し合った内容について今後どう実践していくのか、実践してその後どうなったのかを検証していくことの大切さをアドバイスしていく。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・指導案の書き方について、研修対象者を担当年齢に分けて全ての保育者に広げて実施することにより保育実践力の向上を図る。
- ・日々の保育や保護者支援に役立てるために「子どもの人権と保育」について学び、保育の専門性を高めていく。
- ・ミドルリーダー研修の継続により現場の人材育成を図る。



計画と記録の意味を考える

①男鹿市保育実践力向上研修会

ア 年齢別指導案や記録の書き方研修（3回実施）

～0歳児～

実施日時：令和3年8月18日（水）

13：30～16：00

参加者：12名

講師：秋田県教育庁幼保推進課
幼保指導員 阿部真理氏

講話・演習：「子どもの見方で保育が変わる！

～3歳未満児の指導案の捉え方と日々の記録の意味を考える～」

～1歳児・2歳児～

実施日時：令和3年8月23日（月）13：30～16：00

参加者：8名

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部真理氏

講話・演習：「子どもの見方で保育が変わる！～3歳未満児の指導案の捉え方と
日々の記録の意味を考える～」

～3歳以上児～

実施日時：令和3年8月25日（水）13：30～16：00

参加者：11名

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 佐藤玲子氏
秋田県教育庁幼保推進課 教育・保育アドバイザー 山上真智子氏

講話・演習：「保育記録と指導計画（3～5歳児）」

- 子どもの姿（実態把握）を担当間で一緒に読み取り、その中からキーワードを探して記録し、「SOAP」を意識しながら、次の保育につなげていくことの大切さを共通認識することができた。
- 園長補佐や主任の立場の参加者においては、今後の指導の参考になったとの意見が多く聞かれた。

- 評価・反省の書き方についても学びたいという意見もあったため、次年度の課題としたい。
- △週日案の書き方について個人差があることから次年度も実施したい。

イ 全体研修

実施日時：令和3年10月23日（土）10：00～12：00

参加者：34名

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導班 副主幹兼班長 浅野直子氏

講話・演習：「子どもの人権と保育」

- 「子どもの人権」について参加者全員が意識を高く持つことができた。「子どもの最善の利益」は「子ども主体」で考えていくことが大切であり、それを保育で実践していかなければいけないという思いを共有した。
- 演習を通して、考えを伝え合うことで視点の違いに気づき、多面的な見方があることを知った。今後の園内研修の参考となったのではないかな。
- 「子どもの人権」についてより多くの保育士等が思いを共有するために今回参加できなかった職員へのフィードバックを各園でどのように取り組むかが大きな課題である。



質疑・応答の様子

ウ 男鹿市キャリア別研修会

ミドルリーダー研修会

実施日時：令和3年11月5日（金）13：30～16：30

参加者：7名

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 佐藤玲子氏

秋田県教育庁幼保推進課 教育・保育アドバイザー 山上真智子氏

講話・演習：「園内でリーダー職員の役割を担う職員層を主な対象者とし、園内でのミドルとしての役割や対応力、若手の育成、心構えなどを学ぶ」

- 参加者のアンケートから「今回の研修を受けることで、ミドルリーダーとしての役割や対応力若手の育成や心構えについて再認識し意識することができた」という感想が多くあり、ミドルの立場を考えるよい機会となった。
- 毎年実施してほしいという要望があり、ミドル職員の意識の高まりや意欲を感じた。
- △今回の学びを実践でどのように活かしていくのか、またどのように活かしているのかを園訪問や個人面談等で把握しながら今後もミドルリーダーを支えていきたい。
- △ミドル職員としての自覚について個人差があることから、人材育成のために次年度も実施したい。また、参加者の対象も広げていきたい。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

公開保育研修会や合同研修会の実施を核とした学び合う体制づくり

- ・3園による公開保育を実施し市内施設、小学校、近隣市町村との地域で学び合う体制を推進する。
- ・幼小接続について共有できる場となるよう、小学校からの保育参観、特に協議への参加について事前に働きかけていく。
- ・教育委員会と連携を取りながら接続に関する男鹿市就学前・小学校等合同研修会を開催する。

①男鹿市就学前・小学校等合同研修会

実施日時：令和3年7月27日（火）13：30～16：30

参加者：14名（小学校職員6名・幼稚園及び保育園職員8名）

講師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 佐藤玲子氏

講話・演習：「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

- 小学校側からは、「10の姿について詳しく知ることができた」「今までは、小学校の枠の中でしか子どもを見ていなかった」「今後は接続期を通して、今の子どもたちがあるという視点で見たい」など、就学前教育・保育について小学校の先生たちから理解してもらった。きっかけとなった。

- 保育園側からは「保育がどのようにして行われているか、私たちが考えていることやねらいなどを少しでも伝えられたのではないか」「小学校の先生たちと一緒に研修することで、円滑な接続についての理解を深めることができた」など、接続期の大切さについて再認識することができた。
- 「10の姿」「接続期の教育・保育」についてより周知していく。
- 教育委員会と連携を深め、合同で企画した研修会としていきたい。



5歳児の姿から10の姿を共に考え合う



グループ発表（小学校教諭）

②幼保小連絡協議会

男鹿市立船川第一小学校	： 第1回中止	第2回要請なし
男鹿市立船越小学校	： 第1回（欠席）	第2回（2/10）
男鹿市立脇本第一小学校	： 第1回中止	第2回（2/24）
男鹿市立北陽小学校	： 第1回（6/21）	第2回開催なし
男鹿市立払戸小学校	： 第1回（6/8）	学校運営委員会授業参観（7/7） 1年国語科授業参観（10/5） 第2回（2/10）
男鹿市立美里小学校	： 第1回（7/20）	第2回（2/24）

- 幼保小連絡協議会に教育・保育アドバイザーが出席するようになったことで、学区内の園で開催する公開保育参観や指導主事要請訪問への小学校側の出席が少しではあるが増えた。
- 教育・保育アドバイザーが授業参観や研究授業参観に参加することで、「10の姿」の育ちの大切さを実感することができた。また、授業参観の様子や研究授業の内容等を各園に伝えることで、環境の再構成や援助、配慮等の見直しの参考になっている。
- △コロナ禍により授業参加・保育参加の実施は見送られた。来年度以降は、全学区で実施の計画を立ててもらえるよう働きかけていく。
- △公開保育や授業参観だけではなく、午後からの協議への参加の必要性についても教育委員会と担当課が連携を取りながら伝えていく。また、出席者については管理職以外にも担任教諭等への依頼もしていく。

（5）「県との連携体制の充実」

県との連携体制の活用

- ・秋田県主催の協議会、研修会等に参加し、アドバイザーの質の向上を図る。
- ・県指導主事、県幼保指導員、県教育・保育アドバイザーからの支援を受けながら地域の教育・保育体制の支援、情報共有、活動を円滑に行う。
- ・他市アドバイザーの指導助言に学び、市の巡回指導に役立てる。

①県主催協議会

- ・教育保育アドバイザー連絡協議会

（第1回：4/28 第2回：6/17 第3回：8/26 第4回：10/14 第5回：12/22）

- ・就学前教育推進協議会（11/26）

②県主催研修会

- ・5年経験者研修Ⅱ（9/2）
- ・新規採用者研修Ⅴ（9/7）
- ・マネジメント②－Ⅰ（9/17）
- ・保育実践力習得研修Ⅱ（10/8）
- ・教頭・主任等研修Ⅱ（11/2）
- ・マネジメント②－Ⅱ（11/19）

③他市アドバイザーに学ぶ研修会（仙北市）

実施日時：令和3年11月11日（木） 9：30～15：00

会場：仙北市立幼保連携型認定こども園 角館こども園

仙北市役所角館庁舎

内容：保育参観4歳児、保育の振り返り、副園長の振り返り、アドバイザー会議

④市アドバイザーに学ぶ研修（男鹿市）

実施日時：令和3年10月12日（火） 9：45～15：30

会場：男鹿市立船越保育園 船越地区集会所

内容：保育参観3歳児・保育の振り返り・園経営・園内研修参観・園内研修の振り返り、アドバイザー会議

⑤県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

実施日時：令和3年10月19日（火） 9：30～15：30

会場：男鹿市立脇本保育園 男鹿市脇本公民館

内容：保育参観2歳児・保育の振り返り・県アドバイザーからの指導助言

⑥県指導主事要請訪問への同行

- ・認定こども園男鹿市立船川保育園 こども園訪問（7/6）
- ・男鹿市立五里合保育園（9/14）
- ・男鹿市立玉ノ池保育園（9/22）公開保育
- ・男鹿市立北浦保育園（10/6）
- ・認定こども園男鹿市立船川保育園（10/7）

<中止園：市AD対応>

- ・男鹿市立若美南保育園 公開保育（6/18：中止）
- ・男鹿市立脇本保育園（6/19：中止）
- ・男鹿市立船越保育園（7/21：中止）

<市AD対応>

学校法人秋田キリスト教学園 いづみ幼稚園 公開保育（7/1）

- 研修会の日程や内容等について、県と相談しながら進めてきた。今学びたいことや必要と思われる研修を実施することができたことで保育の質の向上につながっている。
- 指導主事要請訪問への同行では、保育や園内研修での気づかせ方や伝え方、課題や改善等への指導方法を学ぶことができた。特に園内研修に対する考え方や伝え方、話し方を学ぶことができ、学んだことを訪問時の参考にしている。
- 私立幼稚園で公開保育を受け入れたことは大きな成果であった。今後も私立という立場を充分理解しながら事業に対する理解と協力を話し合いを通して働きかけていきたい。

- 公立や私立の設置形態を超えて共に学び、育ち合う体制作りを今後も引続き大事にしていきたい。
- アドバイザー連絡協議会では、県や他市の取り組み状況が分かり、参考になることが多かった。また、協議会をきっかけにアドバイザー同士のネットワークも広がった。
- 「他市アドバイザーに学ぶ研修」では、一堂に会しての参観や協議が難しいことから近隣でも学び合えるような機会も必要と感じた。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R元～R3）の成果と課題

- 事業に対する理解が深まり、受け入れ体制が定着したことが保育の質の向上につながっている。
- 保育参観や園内研修、研修会や公開保育が保育者の意欲を育て、専門性を高めたり保育の質の向上につながったりしている。
- 県主催研修会の受講や指導主事要請訪問同行などを通して、学ぶことがたくさんあった。学んだことを園訪問等で活かすことができた。
- 課題であった小学校教育との円滑な接続については、教育委員会と担当課との話し合いを持ったことがきっかけとなり、各小学校に対してうまくアプローチすることができるようになってきている。今後も引き続き関係性を維持していきたい。
- 就学前の育ちを小学校へつなげていくために、合同研修を通して「10の姿」や「育ちの連続性」を学び合えたことは大きな成果である。
- 各保育園や幼稚園、保育間で保育の質や考え方、方向性などに違いや差がある。今後も園訪問や個人面談、公開保育や研修会等を継続し、さらなる保育の質の向上を目指していきたい。
- 自力での教育・保育アドバイザーのスキルアップは難しいため、県主催研修会、他市のアドバイザーに学ぶ研修会、県主催教育・保育アドバイザー連絡協議会等の継続と参加をしていくことが必要である。
- 「男鹿市就学前・小学校等合同研修会」を含め幼保小の連携が定着するには年月がかかることが予想されるため、毎年計画的に実施し実績を積み重ねていくことが必要である。

実施市の具体的な取組（横手市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各就学前施設において実施している、特徴ある保育に配慮した支援の在り方について検討が必要である。
- (2) 就学前施設と小学校との接続連絡会の設置や交流内容にばらつきが見られる。
- (3) 小学校・就学前施設教職員等の双方における子どもの学びの理解が不十分である。

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

本市において2年間実施済みの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえて、県と連携しながら、就学前施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制を構築する。

【重点】

教育・保育力向上のための研修充実に向けた支援、及び、幼小接続期カリキュラムの実施・見直しの強化と接続体制の構築

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの強化
 - ◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携
 - ◇5歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通級等を通して
 - 5歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳

しく観察し、必要に応じて巡回相談につないでいる。

●市民福祉部幼保担当課との年複数回の情報交換会を通し、より連携を深めたい。

- ・「横手市幼小接続推進協議会」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化

◇第1回横手市幼小接続推進協議会開催：令和3年6月18日

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（10名中9名）事務局（7名）

○今年度の接続推進の方向3点（①保育・教育互いの理解への機会②資質・能力を基にしたカリキュラムマネジメントの推進③幼小接続についての保護者への発信）を確認し、各小学校、就学前施設へ周知し、推進に努めた。

●各団体でその後どの程度共通理解を図り、進めているのかを把握したり、推進に向けて介入していったりすることが難しい。

◇第2回横手市幼小接続推進協議会開催：令和4年2月17日



（2）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・要請訪問前後の継続した訪問による指導計画や事後研修のサポート
- ・保育士等との面談、気になる子の保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（横手市）

⑥派遣実績 計 54 施設 / 全 54 施設 548 回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：私立4園（44回） ・保育園：公立3園（34回）、私立24園（291回） ・幼保連携型認定こども園：私立2園（21回） ・認可外保育施設5か所（26回）、事業所内保育施設2か所（17回） ・小学校：14校（115回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、32園（76回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、9園（10回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、9園（9回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、11園（11回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、40園（369回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5園（5回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14校（68回））
理由	<p>令和2年度の実績を踏まえ、より保育の質向上をサポートできる訪問を重視し、各園のニーズに応じ、継続した訪問をしていきたい。また、幼小接続について実際の接続組織の会議に参加し、小学校区ごとのニーズに合ったサポートをしていきたいため。</p>

○事前訪問では、当日の保育参観の在り方や指導計画の見直し、参観後の園内研修の方法や内容について話し合った。園長・主任等との話し合いもあれば、事前園内研修の形で、多くの職員が事前に研修する場合もあった。要請訪問当日も、ファシリテーターの後方支援をしたり、職員と一緒に付箋に記入したりすることもあった。それによって、各園で園内研修が盛んに進められてきており、市主催の研修会を実際に生かした研修が多数の園で行われるようになってきた。実際に保育者も研修のよさに気付いてきており、前向きな感想が聞かれる。



ADがグループ協議に参加し、話し合いをコーディネート

- 若手保育者や悩みを抱えている保育者等の気持ちに寄り添えないでいる現状がある。保育協議会に相談しつつ、研修会または個人面談（相談）を来年度進めていきたい。
- 各園での研修のニーズは様々であり、各園の年間研修計画の中で、市の要請訪問の位置づけを年度当初に把握しつつ、具体的な関わりを考える必要がある。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第1回横手市保育実践力向上研修会：令和3年5月28日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内就学前教育施設職員（園内研修をリードする職員）34名

【内容】講義「望ましい園内研修を進めるためのファシリテーターの役割」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川由美子

演習 事例を基にSOAPを視点とした研修の実践



SOAPによるグループ毎の事例研修

◇横手市保育士会主任研修会：令和3年6月22日

【会場】横手市平鹿生涯学習センター交流ホール

【参加者】市内保育所主任保育士 27名

【内容】改定児童票の記入についての講義・演習

横手市教育委員会教育指導課 指導主事 小川由美子

○ほぼ全ての施設から参加があり、園内研修の基本となる形を参加者に講義の演習で具体的に理解してもらえた。園内で実際にやってみようという声がアンケートで聞かれ、今年度の訪問では、多くの園でSOAPを視点とした研修が行われた。

- 県主催の研修会も計画されている中で、現場の先生方が市の研修をどの程度必要としているのか、つかめずにいる。研修を数多く実施すればいいというものではないと思うので、園内での日々の保育のために、必要な研修を厳選して行っていきたい。

- ・小学校区・法人同士・交流園同士での「他園に学ぶ研修会」による研修会実施

◇第1回 アソカ保育園（小学校区域内3園と1小学校の職員参加）16名

◇第2回 大森保育園（同法人間2園と1小学校の職員参加）12名

◇第3回 明照保育園（交流園2園の職員参加）9名

◇第4回 常盤保育園（同法人間2園の職員参加）10名

◇第5回 下鍋倉保育所（同地区3園と1小学校の職員参加）15名

- ◇第6回 醍醐保育園（同法人間3園と1小学校の職員参加）15名
- ◇第7回 樽見内保育園（法人間3園の職員参加）8名
- ◇第8回 雄物川保育園（法人間3園と1小学校の職員参加）11名
- ◇第9回 川西保育園（同法人間2園と1小学校の職員参加）14名
- ◇第10回 旭保育園（同法人間2園と1小学校の職員参加）10名
- ◇第11回 吉田保育所（近隣3園と1小学校の職員参加）9名
- ◇第12回 浅舞感恩講保育園（近隣3園の職員参加）13名

○施設同士で学び合うという土壌がなかった中で、アドバイザーが丁寧に説明し、声を掛けつつ実施までに至った。どの参加者も、自園以外の保育を見る機会がこれまでほとんどなかったもので、有意義な研修となっていた。また、保育参観後の協議にも参加し、積極的に意見を述べたり、感想を口にしたりして、公開保育を行った園にとっても有意義なものとなっていた。

●コロナ禍で、以前のような市内全ての参加者が一堂に会しての研修会は難しいと考える。だからこそ、こうした数園と小学校とのミニ公開保育研究会をより広げていきたい。しかし、公開に二の足を踏む園もあり、どう広げていったらいいのか悩んでいる。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・幼小教職員の合同研修会開催

◇横手市幼小合同研修会：令和3年8月18日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内全就学前教育施設（36名）
市内全小学校（14名）

【内容】「横手市の接続状況と今後の方向性について」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

グループ協議（撮影動画とエピソードをもとに子どもの姿から学びを）

～年長児の遊びと1年生の生活科学習を事例に～

講評・講義 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏



砂遊びをする子どもの姿を動画で見合い、学びや育ちを付箋紙に書き込む

○撮影動画を使用し、実際の子どもの姿を基にした協議は、非常に具体的で学びの姿のつながりを共通の視点で話し合うことができた。

●コロナ禍で短時間での開催を計画したため、もっと協議の時間が欲しかったという参加者の声がかかれた。短時間で協議をいかに有意義に行うか課題が残る。

- ・資質・能力を基にした接続期カリキュラムの作成・見直しの推進

◇横手市教育推進委員会幼小連携委員会第1回研修会：令和3年8月2日

【会場】横手市平鹿生涯学習センター視聴覚室

【参加者】市内小学校委員10名

【内容】講義「幼児期に生まれた資質・能力を小学校でさらに育てるために」

横手市教育委員会教育指導課 指導主事 小川 由美子

協議「幼小接続の取組に係る情報交換」

◇横手市教育推進委員会幼小連携委員会第2回研修会：令和4年1月7日

【会場】横手市平鹿生涯学習センター視聴覚室

【参加者】市内小学校委員10名

【内容】取組の成果と課題

協議「幼小接続における学区の実情に応じた課題解決を図るために」

◇横手市保育士会保育研究委員会：年7回開催

【内容】幼児期の終わりまでに育てたい姿を視点とした各年齢の育ちを読み取る

- ・小学校区での職員体験事業、授業参観・保育参観の継続
◇職員体験事業参加者（小学校30名 就学前教育施設35名）

- ・各小学校区での幼小連携委員会の組織づくりと計画的連携事業実施



横手市立旭小学校での保育教諭による体験事業（1年音楽科）

○横手市幼小接続推進協議会の開催を土台とし、各関係団体が研修を進めており、市教委としてその研修の講師を務めたり、をしったりしながらボトムアップの取組を進めている。

- 幼児期の終わりまでに育てたい姿を小学校のスタート・カリキュラムにどう生かしていくかの理解をさらに広めていきたい。

（5）「県との連携体制の充実」

- ・県主催の協議会・研修会、事業実施し主催研修会への継続参加
◇教育・保育アドバイザー連絡協議会（第1回～第4回）参加
◇園長等運営管理協議会（5月27日）参加
◇就学前教育理解推進協議会（6月2日）参加
◇新規採用者研修（7月15日）参加
◇5年経験者研修（9月2日）参加
◇キャリアアップ研修マネジメント（9月17日）参加
◇中堅教諭等資質向上研修会（10月13日）参加
◇教頭・主任等研修会Ⅱ（11月2日）参加
◇中堅教諭等資質向上研修会（11月9日）参加
◇就学前教育推進協議会（11月26日）参加

- ・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化

◇ステップアップ事業支援訪問として、市主催の研修会についての相談、また講師として講評・講義を県指導主事に依頼

- ・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施

◇10月1日 雄物川保育園で予定していたが、コロナウィルス感染防止の観点から中止
→12月21日 浅舞感恩講保育園で開催
◇市教育・保育アドバイザーが、男鹿市と仙北市での学ぶ会に参加

- ・県要請訪問へのアドバイザー同行訪問

◇県要請訪問への同行：6月15日 相愛保育園
7月9日 認定こども園沼館保育園
9月9日 和光保育園

◇県認定こども園訪問への同行：6月16日 認定こども園土屋幼稚園・保育園
10月19日 認定こども園こひつじ

○他市の事業状況やアドバイザーとしての関わり方を知ることができ、本市の事業に生かすことができている。また、県指導主事や幼保指導員の指導を実際に学ぶことができ、自分たちの訪問時の参考にしている。

- アドバイザー連絡協議会と市アドバイザーに学ぶ研修会を一緒にして、各地で行うということもできるとよいのではないか。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R元～R3）の成果と課題

- 私立園が大多数の本市においてこの事業への理解を図っていくのは一筋縄ではなかったが、アドバイザーが毎月の広報誌を手交しながら、顔を合わせ、話をしていくことで関係性を築いてきた。
- 保育を基に園内研修をどの園でも行うことを目指して、研修会を開催したり、事前訪問で研修内容の相談にのったりしてきたことが、形となって現れてきた。
- 幼小の円滑な接続に向けて、どちらの側にもその意識が表れ、そこに向けてそれぞれを理解していこうという具体的な連携・接続への実施が増えてきた。
- その園らしい特徴ある取組を尊重しつつ、要領や指針にのっとった保育を進めていくというバランスが難しい。トップダウンのやり方では押しつけになってしまい長続きはしないし、何かの統一した型を提示してしまえば、それで完結してしまう。保育の質向上も幼小接続も目に見える結果ではなく、その過程が大切であると考えてるので、就学前教育施設、小学校ともに理解を広げつつ事業を継続していきたい。

実施市の具体的取組（潟上市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各園の形態や地域性をいかした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導体制の構築が必要である。
- (2) 市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向けての具体的な取組には差が見られる。
- (3) 就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。

【重点】

小学校への円滑な接続に向けた研修会等を実施し幼保小接続に対する支援体制の整備を図る。

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ①学校教育課と幼児教育課が連携し円滑な接続に向けた事業を実施
- ②教育委員会幼児教育課へ幼児教育アドバイザーを2名配置
- ③学校教育課による園訪問（7園）
- ④教育支援アドバイザーによる就学に向けた幼児通級教室の実施（実施施設4か所、11人）

<○成果と●課題>

- ①④教育部局、保育部局、福祉部局、保健部局が合同で年中児一人一人の臨床検査及び集団観察を実施し、円滑な接続に向けた適切な教育・保育につなげるための連携を行っている。
- ③園訪問の際に、就学先の小学校教員に同行を依頼し、就学前の園児たちの実態について把握する機会を設定している。
- ①③④年々配慮を要する園児が増加傾向にあり、訪問や教育相談等の日程調整や就学に向けた有効な協議時間の確保が困難になりつつある。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

市内就学前施設への巡回訪問及び園からの要請による訪問指導と保育者との個別面談による課題の把握と解決のための支援の実施

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（潟上市）

⑥派遣目標 計 18 施設／全 22 施設 143 回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：公立 1 園（8 回） ・保育所：公立 3 園（43 回） ・幼保連携型認定こども園：公立 4 園（71 回） ・幼稚園型認定こども園：私立 1 園（5 回） ・その他の施設： 小規模保育所 2 か所（5 回）、認可外保育施設 2 か所（2 回）、事業所内保育施設 1 か所（3 回）、企業主導型保育所 2 か所（6 回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、7 園（80 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、7 園（11 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、7 園（5 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8 園（7 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、13 園（24 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8 園（6 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6 校（23 回））
理由	<p>年度途中（9 月）に公立幼稚園 1 園及び公立保育所 2 園を統廃合し、幼保連携型認定こども園を新設した。</p> <p>また、小規模保育所が 2 か所新設された。このことにより、訪問回数を設定した。</p> <p>幼児教育アドバイザーが、幼保小の相互職場体験及び協議へ同行するほか、小学校との合同研修会を実施することで連携推進を図る。</p>

<○成果と●課題>

- 訪問支援活動が、保育者自身の保育を振り返るきっかけになっている。子どもに対する接し方や援助、配慮、環境の構成、職員の連携についてのアドバイスをクラス内で共有し改善に向けて実践している。
- 各園が自園の課題に取り組み、日々の保育に一定の効果が得られているものの、課題の多面的な理解が薄くなってくると視点にズレが生じてくるため、園内での課題の理解の確認に関わる必要がある。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

環境構成や指導方法などについて共通理解し、地域や施設の枠を超えて市全域における教育及び保育の質の向上を目指す。

①公開保育研究会

開催日 10 月 28 日
場 所 出戸こども園
参加者 9 施設 9 名参加

②公開保育

開催日及び場所
7 月 8 日 天王幼稚園、7 月 16 日 追分保育園、10 月 22 日 追分保育園、
11 月 9 日 昭和こども園
参加者 市内就学前施設保育者

③保育実践研究

モデル園 追分保育園「園児の体力向上事業」
公 開 日 10 月 22 日（公開保育時）

中間評価 9月9日
年間評価 2月22日

④保育実践研修会

ア「未満児保育の大切さ」

開催日 7月30日
場 所 潟上市役所常任委員会室
ファシリテーター 市幼児教育アドバイザー
参加者 12施設17名

イ「保育の記録の大切さ」

開催日 11月25日
場 所 潟上市役所常任委員会室
講 師 県幼保推進課 阿部真理幼保指導員、尾形真紀子幼保指導員
参加者 10施設14名

<○成果と●課題>

- 感染症対策を講じながら事業実施に努め、時間及び人数を制限し市内全施設の保育者が参加し自園への園内研修へつなげた。
- 公開保育研究会や情報発信等日常的に交流を行っていくことで垣根のない円滑な交流へより多くの保育者が参加できるよう情報発信の方法及び研修会の持ち方を改善する必要がある。

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

教育・保育課程等の相互理解を図り連携を推進する。

①全小学校区で相互職場体験及び協議を実施

7/29 大豊小：9/9 昭和こども園、8/20 追分小：9/1 追分保育園、7/29 東湖小：9/3 二田保育園、8/20 出戸小：9/24 出戸こども園、8/20：飯田川小：11/12 若竹幼児教育センター

②就学前・小学校等潟上市合同研修会

8/3 市役所大会議室 31名参加
講師 県幼保推進課 佐藤玲子指導主事
講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」
グループ協議「育てたい子どもの姿の共有」
情報交換及び指導助言

<○成果と●課題>

- ①について、小学校低学年担当と年長児担任とが連携し、就学前後の一連の取組で継続的に子どもを観察することにより、成長や変容を捉えることができた。さらに、各校園での学習内容の共通理解にも繋がっている。
- ②について、幼保小連携に向けた取組は、管理職を含めた各校・園において連携の意識を高める上で有効な機会となり、就学前教育の指導計画と小学校のスタートカリキュラムの連続性の視点をもった協議は来年度への改善に生かせる研修内容となった。
- いずれの事業も、特定の担当職員を対象にした研修であり、各校園全体に研修の成果と課題を広めるための時間と場の設定が必要と思われる。また、コロナ感染症対策に伴う日程や研修内容の変更について、各校園の調整に困難な面も見られる。

(5)「県との連携体制の充実」

- ①就学前教育推進協議会及び県アドバイザー連絡協議会への参加
- ②市幼児教育アドバイザー育成のための県指導主事及び県アドバイザーの定期的な訪問による指導支援の活用

③保育所の要請訪問及び認定こども園・幼稚園の計画訪問への同行

<○成果と●課題>

○県アドバイザー連絡協議会では、参加者からの指導助言や各市の特徴ある取組等参考になることが多く、貴重な機会であった。

●今年度はコロナ禍での実施となり、県からのアドバイザー支援訪問が制限され回数が減少した。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R元～R3）の成果と課題

<○成果と●課題>

○各年度ごとの具体的な施策を遂行することにより、年々着実に幼保小連携の充実が図られてきた。

●事業の対象を保育者に絞って行うことが多かったが、園全体の質の向上のためには、管理職との関わりを十分行う必要がある。

実施市の具体的取組（仙北市）

1 教育・保育の現状と課題

(1) 各年齢層での経験にばらつきがあり、保育の中で子どもの内面を読み取ることや、若手への指導に自信が持てずにいることも多い。管理職・中堅保育者の育成や、保育者の質の向上に向けて取り組むことが課題である。また、育児休暇明けの未満児の途中入園希望者や、個別での関りが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も課題のひとつである。

(2) 幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育・授業参観後の協議には至っていない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについての育ちの協議ができるように教育委員会と連携した相互理解のための体制作りをしていきたい。

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

（教育・保育の質と専門性の向上）

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。

「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。

（幼小連携の強化）

当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

【重点】

就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取組体制の構築に努める。

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）

・教育委員会と子育て推進課の連携体制の構築（継続）

・昨年に引き続き学区内施設訪問に、園長等も同行できるように調整を図る

① 教育委員会学校訪問に同行する。

R3.6月29日(火)	桧木内小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
	西明寺小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
R3.7月5日(月)	生保内小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
R3.7月8日(木)	神代小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
R3.7月12日(月)	白岩小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
	角館小学校	教育委員会・教育委員・園長4名・アドバイザー

○全学年の授業参観をしたり、教育委員の感想を聞いたりすることで、同行した園長も小学校の現状を知ることができた。

○時代の流れの中で授業の仕方は変わってきているが「子どもの意欲を引き出す」「自分の考えを発表できる・発表を聞くことができる」等目指す子どもの姿は、園が日々考えて保育していることにつながり、小学校の先生達と共通理解を深めることの大事さを一層感じる機会になった。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる園への支援（園内研修、保育実践）

- ・定期的な園内研修支援（研修の取り組み、事前の研修内容を含む）
- ・各園の課題を明確にし、課題解決に向けての園訪問を継続する
- ・保育実践の見直し（指導計画等）、保育参観からの保育の振り返りの指導・助言を行う
- ・新規採用保育者、保育補助との個別面談・支援の構築を図る
- ・副園長、ミドルリーダーの育成を図る

○園内研修支援：話し合いの視点をどこにおくか、参観者への付箋の書き方の伝え方をどうするか等、事前に研修委員達が話し合いを持つことで、研修の内容を深めようとする意識が高くなってきた。アドバイザーも事前の打合せに参加する機会が増えたことで、当日の研修での進行や記録担当者からの意見をより具体的に聞くことができるようになってきている。

○保育を公開した保育者と振り返りの時間を、後日持っている。協議で話し合われたことと、当日の振り返りから遊びの中で経験していることや手立て等を確認しあうことも保育の効果的な方法になってきていると思われる。

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（仙北市）

⑥派遣実績 計17施設/全17施設 226回		
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園：公立 3園（56回） ・幼保連携型認定こども園：公立 1園 私立 4園（159回） ・その他の施設：（事業所内保育施設2か所（0回）、家庭的保育施設1か所（1回） ・小学校：6校（10回） 	
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園（89回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園（24回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園（70回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（52回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園（32回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（9回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校（27回） 	

理	・園訪問を継続し、保育者の課題に添って支援をしながら、一人一人の保育の質の向上に努める。
由	・いろいろな立場での相談を受けることも多く、個別相談や経験年数に応じた研修企画に努める。 ・周知活動では、アドバイザーの活用法の例示をしながら、アドバイザーの活用範囲を広げていく。 ・園内研修へのプロセスに係ることで、研修の充実を図る。

○アドバイザーの周知説明のため、アドバイザーの役割、仙北市の研修計画の日程等を紙面に記載し各園に配布した。様々な場面でのアドバイザーの活用方法を周知したことで、管理職から保育者までいろいろな職種の方々から話を聞く機会が増えた。

△保育者から指導計画のねらいや、子どもの今の姿の捉え等の相談を受けた時に、保育の振り返りや話し合いで「気を付けていきたいことや気付かなかった点」を説明しているものの、保育者に継続して支援する難しさを感じている。

保育者の課題を園に明確に伝え、園での支援の継続を図ることも必要と思われる。

<園内研修>

○今までの園内研修を見直し、保育の話し合いを深めるために各園で研修時間の確保や進め方を工夫しようとする姿勢が見られる。保育参観後、当日のねらいを軸としながらKJ法での協議は、研修を終えた後も園内研修委員での振り返りの時間を取りPDCAサイクルをまわし、改善に活かそうとしている。

●公開保育での振り返りは、KJ法の付箋の書き方や付箋を出す時の話し方等、課題意識は出ているものの次回の研修になかなか結びつけることができないでいる。

●保育の振り返りがそれぞれの遊びに関わる子どもの姿であったり、遊びの盛り上がりになったりしてしまうことが多い。その遊びを経験させることで何が育つことを意識しているか、ねらいを達成させるためにどんな手立てをしたのかを話すことができるように意識させていきたい。

△園内研修の内容に応じた支援については、何を視点に話し合うかを明確にしながらかアドバイザーができるように心がけている。

しかし、十分な関りができているかは課題も多くアドバイザー自身の自己研鑽の部分も大きいことを感じ努力していきたい。



神代こども園<園内公開保育3歳児>

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり

- ・園や保育者の課題に応じた研修会や公開保育の実施
- ・キャリアステージごとの研修確保や、保育者のニーズに応じた研修に努める
(ファシリテーター研修、保育補助者研修会開催)
- ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修(会議)を実施する

◇保育補助研修会 R3.5月11日(火)

※子どもの発達理解と内面理解を深める

(参加者 22名) 補助職員16名・用務員1名・副園長5名

「子どものよりよい生活のためにⅡ」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

アンケート結果

① 満足	② やや満足	③ やや不満	④ 不満	※記載なし
21人	0人	0人	0人	1人

<参加者の感想>

保育補助職員

- ・子ども一人一人の発達の速さが違うのは当然で、一人一人に合った声かけや援助が大切ということを改めて学ぶことができた。オムツ交換時は、いつも「トイレに行こうね」と誘導する声かけしかしていなかったのが、次からは「スッキリしようね」等の声かけを大事にして子どもが「快」を感じるための援助を心がけようと思う。また、子どもの姿を発達していく姿と捉え、子どもの特性を十分に理解して子ども達の視点に立って保育に取り組んでいきたい。

副園長

- ・保育教諭・保育補助等の職種に関わらず発達理解と内面理解について、保育の根本的な基本が本当に伝わってくるわかりやすい内容で、初心に戻るような気がした。
- ・保育の中で、保育補助職員の力に助けられている。実際は、苦勞されている点や働きにくい状況があると思う。普段のコミュニケーションを大切にしながら、保育補助の立場の思いに寄り添っていきけるような関係を築いていきたいと思った。



保育補助研修会
令和2年度より継続

- 昨年に続き、継続して開催。今年度は、園運営に関わる立場の副園長の参加も募る。研修会から、管理職の立場で保育補助の役割や保育の中での子ども理解等について見直すことが大事であるということを感じることができたという感想が多く、職種に関わらず子どもをいろいろな視点から見ていくことの意識が高まったと思われる。
- △園生活では、様々な職種の職員が子ども達に関わっていることを考慮し、今後、給食職員、用務員等も含め研修の内容や研修参加について園への働きかけも工夫していきたい。

◇ファシリテーター研修会① R3.5月13日(木)

目的：園内研修(研究)の考え方や進め方を学び、
保育者の資質の向上を高める。

「園内研修の進め方」について

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

(参加者20名)

<参加者の感想>

- ・FCの役割の難しさと同時に、研修を進める上で重要な存在であることを改めて学ぶことができた。すぐには上手く進めることができないと思うが、ポイントを押さえ、周りの参加者に助けてもらいながら、経験を積んでいきたいと思った。
- 講師の資料がとてもわかりやすく具体的であることから、園内研修で活用していくという声が多く聞かれた。資料を読み解きながら自分の実践につなげていこうする意欲が感じられる研修会になったと思われる。



ファシリテーター研修会<グループ発表>

◇保育補助研修会 R3.5月18日(火)

目的：子どもの発達理解と内面理解を深める

(参加者23名) 保育補助職員名・栄養士1名・副園長7名

「子どものよりよい生活のためにⅡ」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

アンケート結果

① 満足	② やや満足	③ やや不満	④ 不満
23人	0人	0人	0人

<参加者の感想>

保育補助職員

- ・災害の事例を聞き、改めて子ども達が安全に過ごせる環境作りと事故の大小を問わず、その場でとどめず普段から十分に目と手をかけ子どもを守るために危機管理をしっかりしようと思いました。保育をする中で、子どもに信頼してもらい、子どもを信頼し子どもの立場になって内面をから見る事、一人一人の発達などを理解し大事に丁寧に援助していきたい。

副園長

- ・今回の研修は、保育者も保育補助も、子どもの命を守り子どもの思いに寄り添い、ひとつのチームとして働くことを再確認できた研修でした。明日から働くことに意欲と喜びをもって子どもに関わることが、園全体の質の向上になると思いました。

栄養士

- ・保育に関する話を聞く機会がなかったので、今回分かり易くとても心に響きました。子どもの目線に立って関わり、内面をよく理解できるように子ども達から何かのサインが出ていないか、いつもと様子が変わらないか等注意を払い、毎日楽しく前向きに頑張りたい。

○事例から普段の保育に照らし合わせて考えることで、自分の声のかけ方や今まで接してきた場面を思い出しながら保育の振り返りができたことは、大変有意義な時間になった。子どもの発達や内面の読み取りがすぐできなくても、まわりの保育者と一緒に考えていくことの大切さが伝わったようであった。

○保育補助職員には、個別の悩み相談を受けることも多かったが、保育の場面を捉えながら子どもの発達に応じた援助や遊びの中で経験していることを一緒に考えていくことが、日々の子どもの理解することにつながるという研修会になったことが成果であった。

◇ファシリテーター研修会② R3.5月21日(金)

目的：園内研修(研究)の考え方や進め方を学び、保育者の資質の向上を高める。

「園内研修の進め方」について

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 斉藤 丈彦 氏



ファシリテーター研修会
～グループ協議～

(参加者20名)

<参加者の感想>

- ・ファシリテーターとして、参加者が主体的に考え、より考えを深められるように意識しながら進めていきたいと思った。各学年の発達を捉えることの大切さを痛感した。みんなで考えられるよう視点を示し、みんなの思いや考えを引き出し、鍵となる発言を取り上げて広げていくことから気づき、学びになる協議を目指したいと思った。

○役割分担を決めてKJ法で進めていく中で、進行・記録者達はやり方を悩む姿もあったが、講師からアドバイスをもらい、より具体的な課題をみんなで考える有意義な時間になった。

△子ども達への関わりや援助、環境の構成等をKJ法で話し合うことの良さや視点の持ち方を捉えつつ、保育に対していろいろな意見が出されるKJ法で話し合いをする園が増えている。しかし、参加者からの意見が多く出されることを良しとしている園も多く、当日の保育のねらいや研究の視点に合わせた話し合いに迫るためにも、KJ法の演習の仕方を各園に伝えながら、園で話し合いの工夫ができるようにしていきたい。

◇保護者支援・子育て支援（参加者18名）R3.7月21日（水）

目的：保護者等の関わり等についての知識・技能を高め保護者支援・子育て支援等に反映することができる。

「保護者支援・子育て支援」

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美 氏

<参加者の感想>

- ・子育て支援とは、目の前の相手が必要としているときを共に「歩む」ことであり、「保育者支援」と「保育」はひとつのものであることを学んだ。これまでの経験と勘で保護者支援をするのではなく、一人一人の困りごとや悩みに丁寧に寄り添い、保護者が自信をもって子育てに向かうことができるように子どもの良い姿をたくさん伝え、成長の喜びを共有していきたい。
- ・演習を通して日常の何気ない行動や視線一つをとっても相手に与える印象が大きく違う事がわかった。子どもはもちろん保護者に対しても肯定的な気持ちで相手を捉え「目つき」ではなく「温かなまなざし」を向けながら、信頼関係を築いていくことができるように意識して実践していきたい。

△家庭環境が多様化し、それに伴って子どもの生活体験も多様化している。

保護者のニーズも多くなり、子ども一人一人に寄り添うように、保護者にも一人一人に寄り添っていくような支援を考えていくことが重要という視点から、保護者支援の研修に期待が寄せられている。

◇園長研修会 R3.7月29日（木）

目的：保育所・認定こども園等の運営や諸問題について識見を高めるとともに園長としての資質の向上を図る

（参加者園長 7名）

「園長の役割について」～組織のトップとして～

講師 仙北市子育て推進課 特別支援相談員 相澤 克彦 氏

<参加者の感想>

- ・講師は自分達にとって身近な親しみのある方であり、実体験を基にした講話はとても分かりやすかった。園の総括責任者であることを常に意識して副園長と協力し合いながら、職員間の連携を大切に大人も子ども達も楽しく生活できる場を作っていきたい。講師が行った企画・体験は子ども達にとっては学校の勉強よりずっと心に残ると思う。「子ども達の意見を聞いて、やりたいことをやらせる」という点において園の子ども達にも通じることであり、講師の子ども達への思いを受け継いでいきたいと思った。
- ・園運営・保育全般について多方面から物事を見ることや、責任の重さを感じながらも具体的な取り組みの講話を聞いたことで自分の信念をしっかりと持ち、がんばっていかなければならないと身にしみて感じた。
- 講師の体験や子ども達との具体的な取り組みの事例から、管理職として大事にしなければならない心の持ちようを学び、園長が改めて自分を見直す研修になったようだ。
「早い時期に開催してほしかった」という参加者の声があり、管理職としてどのような園経営を目指していくのかという研修の開催時期を今後考えたいと思う。

◇仙北市の研修会について <園長：アンケートからの意見>

- ・保育補助研修は、内容も良く今後も継続してほしい。
- ・昨年は、副園長研修会があり、副園長としての役割について学びも大きかったので、ぜひまた開催をお願いしたい。

- ・毎年、様々な職種の研修があり、仙北市内で研修に参加できることはとても意義が大きい。これからもお願いしたいと思う。
- ・キャリアアップ研修にある「保育実践」の研修が少なく、なかなか参加できずにいるので、仙北市内で研修会があればいいと思う。
- ・キャリアアップのための研修も良いが、年齢別や職種部門別の研修があればさらに情報交換や交流ができ、ステップアップにつながるのではと思う。

◇乳児保育研修会（参加者18名）R3.10月22日（金）

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。
「乳幼児の主体を育む保育」～育ちを支える環境の構成と保育者の関わり～

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

（参加者18名） アンケート結果

⑤ 満足	⑥ やや満足	⑦ やや不満	⑧ 不満	※記載なし
17人	0人	0人	0人	1人

<参加者の感想>

- ・講師の先生の生のお話は、やっぱり良いな。と思いました。どれも、心が熱くなるような、やる気が出る講義でした。
- ・演習では、実際に子どもの姿を想像し、動画を見たりすることで、普段何気なく使っている素材でも様々な発見や感情が生まれることが発見でき、同じ行動でも子どもの思いは違うことを改めて気づくことができた。

○0歳児～5歳児のそれぞれの育ちを理解するキーワードを持ちながら、保育の中で大切にしたいことが心に刻まれた講義・演習になった。

△参加者から「もっと、話を聞きたかった」という声が多く、内容と共に研修時間の設定も考えていきたいと思った。



保育の中で大切にしたいこと～保育者の視点を考える～

□中止した研修会

◇実技研修会

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

◇特別支援研修会

◇ファシリテーター研修会③R3.10月～延期 R4.2月15日（火）

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

○コロナ禍の中でほとんどの研修がWebになっていることから、仙北市内で研修を受けることができることは大変有意義であった。

△仙北市内で新型コロナウイルス感染者が急拡大し、小、中学校3校の休校により来年度に延期する。延期や中止を決定する判断の難しさを痛感し、更に情報を収集しながら感染防止対策に努め、研修会を開催していきたいと思う。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加して、課題になることを一緒に考えていく
- ・幼小連携に関する研修会（公開研究会を開催）
- ・幼児教育に関する専門性の向上を図るとともに、子育て支援、家庭教育の推進を図る
- ・幼小連携に関する研修会

○仙北市は、小学校と園が同じ学区内にある。小学校、園の交流は毎年行うという基盤ができており、話し合いは4月、5月に行っているが、行事の中で子ども達の交流が主になっている。

●幼小連携の大切さは双方で認識しているものの、行事や時間調整がからみ難しい。

3月に子どもの育ちを伝え合うというよりは、子どもの情報提供が多い話し合いになっていることが現状である。

△公開保育、授業参観を通して「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して、子どもの育ちを捉える場や子どもの姿から具体的に話し合うことが、今後双方の教育理解につなげるためにも必要なことと思われる。

◇就学前・小学校仙北市合同研修会 R3.10月12日（火）

午前 にこにこ子ども園公開保育

午後 講話・協議 KJ法による協議

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

△新型コロナウイルス感染者の急拡大により、来年度に延期する。

管理職による教育長への「就学前・小学校合同研修会」の趣旨説明と全小学校からの参加のお願いをしたことにより、研修会への理解を深めてもらうことができ、これまでに無い大規模な幼小の連携についての研修会開催準備を進めていただけに残念だった。

○講師をお願いしていた主任指導主事から「幼小連携体制チェックシートの分析や課題、アンケートの集計結果及び資料」をいただき市内小学校6校・8園に紙面で配布することができた。今後、各小学校や園で活用されていくことと思われる。

◇小・中仙北市教育研究大会（教育委員会主催）R3.11月8日（月）

市内各校（オンラインで開催）

（研究校：仙北市立桧木内小学校、仙北市立桧木内中学校）

研究テーマ

「自ら問いを発する子どもの育成～9年間の系統的な指導の在り方の工夫～」

参加者：市内中学校（5校）市内小学校（6校）

市内園職員（21名）

教育長、教育委員会、教育委員、教育・保育アドバイザー

<参加者の感想>

・研究校が自園とつながりが深い2校ということで、興味深く研究を聞くことができた。
園・小・中へと育ちの理解の幅を広げ、育ちの連続性を大切にできるよう連携を深めていく必要があると感じた。

・自ら問いを発する子どもの育成の研究実践や発表を聞き、9年間の取り組みの前には園での遊びや学びがあり、その基礎となる育ちを支えるために何が必要なのか、どんなことができるのか職員で話し合う機会となった。発見したことや疑問に思ったことはもちろん、どんなことにも安心して表現したり、話したりすることができる子どもに育てていきたいと思う。

○オンラインで開催された研究大会であったが、各園からたくさんの職員が参加できたことは幼小連携を考えるうえでとても大きな取り組みになった。研究テーマや子どもの実態を

踏まえた発表は、園の研修と重なるところが大きく就学前にできることをしっかり培っていくことが大事であることを再確認することができた。

◇仙北市立角館小学校校内授業研究会（国語科・外国語科）R3.11月18日（木）
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 山口 晃正 氏
仙北市教育委員会北浦教育文化研究所 指導主事 門脇貴一郎 氏
授業参観：（1年生・6年生）、午後の協議
参加者：市内園職員（4名）教育・保育アドバイザー

◇仙北市立白岩小学校指導主事訪問（生活科）R3.11月22日（月）
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏
授業参観：（1年生）、午後の協議
参加者：市内園職員（9名）教育・保育アドバイザー

◇幼保連携型認定こども園仙北市立角館こども園 R4.1月12日（水）
5歳児保育参観・角館小学校との協議
参加者：角館小学校4人・園7人・教育委員会2人・アドバイザー
教育長（保育参観のみ）

○子育て推進課と教育委員会の連携が課題の一つであったが、指導主事訪問や園の公開保育の時に教育委員会と課がやり取りし、園や小学校に案内することで市内の参加者を広げることができた。

R4.3月 各園・小学校情報共有

- ・仙北市子ども家庭総合視点拠点（R.4月1日 子育て推進課に設置）
- ・教育委員会・園・保健課・子育て推進課
- ・就学前児童に関する支援機関連携会議（事務局：子育て推進課（家庭援護係）

R3.4月27日（火） 事務局・北浦教育文化研究所・市内8園・アドバイザー
R3.7月6日（火） 事務局・北浦教育文化研究所・市内8園・アドバイザー
R3.10月12日（火） 事務局・北浦教育文化研究所・市内4園・アドバイザー
R3.10月13日（水） 事務局・北浦教育文化研究所・市内4園・アドバイザー
R4.1月21日（金） 事務局・北浦教育文化研究所・市内8園・アドバイザー

○子育てに関わる機関との連携体制が広がり、連絡会議を開くことで、子ども達の様子やケース事例によって専門の視点から話し合いが持たれるようになってきた。

●子ども達の様子を伝え合うことに時間が長引いてしまうことも多くなったため、10月の会議を地区ごとに分けて行う。支援機関に名前が出てくる子どもの数も多くなってきている実態を踏まえ、会議の時間や内容の持ち方を検討していく必要がある。

（5）「県との連携体制の充実」

- ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加
- ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修、情報共有
- ・指導主事、及びアドバイザーによる研修会等の情報共有により専門性の向上を図る

○指導主事訪問後にアドバイザーが訪問することで、園や保育者の振り返りを聞くことができている。指導主事や幼保指導員に同行し、学んだことを広めたり、様々な面で園へのサポートを考えている。

○Web研修で、一緒の場で研修を受けながら参加の保育者と話題が共通になったり、日々の保育

を自ら改善しようとする姿勢に支援できたりする機会となっている。

- アドバイザー連絡協議会で他市とのネットワークが広がっていることを感じていただけに、コロナ禍の中で、他市の研究会への参加、アドバイザー同士の情報共有の場が少なくなってしまったことは残念であった。
- △アドバイザー同士のネットワークを強みに新しい保育の知識を得たり、他市のアドバイザーと情報交換したりしながら、実践を意義のあるものとしていきたい。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R元～R3）の成果と課題

- 保育者の「質」の向上や園の組織をつくるマネジメントは、すぐに成果が出るものではないが、ひとつひとつの実践の積み上げがこれからも大事だと思う。保育には「正解」がないことから、実践し、振り返りを大事にしていこうという熱意が各園に出てきたことは、大きな成果である。そのためにも、仙北市独自の研修会の内容を精選したり、アドバイザーの訪問等を通したりしながら課題に添った内容を考えていきたいと思う。
- 幼保推進課所管やキャリアアップ研修等で受けた研修内容は、保育や園内研修にいかそうとする学びが大きいと思われる。しかし、そのことにどんな意味を見出して実施するのかという明確さに欠けることもあり、職員の共通理解を図る難しさを感じていることもある。
- 園内研修を深めたいという若手職員の意欲が高くなっている。
また、園内研修の年間計画にアドバイザーの参加が組み込まれてきたことも大きな成果であると捉えたい。
「研修テーマを決める」「研修内容を見直す」等、当日の研修参加ではなく、園内研修に関わる過程に関わっていくことができるように努めていきたい。
- 「子ども達のために」という職員の思いを汲みながらの保育も、時に業務を多くしていることもあり、管理職として業務の見直しをするとともにカリキュラムマネジメントを考えていく管理職の力も求められている。
- 研修の在り方や保育の充実に向けて、園にアドバイザーが入ったことで、変わってきた面があるかどうか等、アドバイザーの評価にふれながらPDCAサイクルを考えたい。
- 市や園の課題等についての分析は、子育て推進課内でも検討できるように努めていきたい。

実施市の具体的取組（大仙市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 園、小学校互いの見方、捉え方、子どもの育ちへの理解に相違がある。
- (2) 小学校入学後の生活、学習に適應できないケースが見られる。
- (3) 幼小の交流活動、参観は行われているが、その後の協議や情報交換等の機会が少なく、幼児教育から学校教育への接続を意識した環境づくりが必要。

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

- ・教育・保育アドバイザー2名で活動。市内の教育・保育施設及び小学校を訪問し、事業年度計画を周知。園訪問、園内研修等の園支援を通じ、保育士等への関わりを深めていく。また、各小学校校区の年間活動状況の実態を把握し、相互参観及び協議を促し、相互理解をより深まるよう、支援していく。

【重点】

- ・園内研修がより充実できるよう、積極的に教育・保育アドバイザーの活用を促す。
- ・保育のニーズに即した研修会、更なる幼小接続を意識した幼小合同研修会を実施する。
- ・教育保育施設間でともに学び合う体制を定着する。

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・教育・保育アドバイザーを子ども支援課に2名配置（継続1名、新規1名）
- ・教育・保育アドバイザーによる事業計画の周知活動（市内小学校及び就学前教育・保育施設等）
- ・市内全就学前教育・保育施設及び小学校の年間行事、連携活動計画等の情報を収集
- ・市教育委員会との連携を深めていくため、定期的に事業の進捗状況の報告、確認、情報交換、協議の場をもつ。

○コロナ禍ではあったが、教育・保育アドバイザー2名で、市内の就学前教育・保育施設及び小学校を訪問し、事業の年間計画が周知できた。事業2年目となり、事業への理解が深まり、幼小連携に関する協議等にアドバイザーが関わっていくスタイルができています。

○教育委員会と定期的に（月に1回程度）情報交換し、事業の進捗状況等を確認できている。教育委員会からの働きかけもあり、小学校でも幼小連携の意識が深まってきた。

●小学校区での連携活動に市教育委員会とともに参加し、市教育委員会との連携を更に深めていく。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・市内の就学前教育・保育施設への訪問を計画的に継続実施（27施設）
定期訪問：前期5～6月 後期11月～12月
（園の課題把握、保育の支援、支援を要する子の把握、教育・保育アドバイス）
- ・単発派遣訪問…園からの要請に応じておこなう。積極的な活用を促す。
- ・園内研修への支援
（保育内容の充実、保育士等のサポート、園の課題解決に向けた支援）

【単発派遣等訪問】

- ・せんぼくちびっこらんど みどり園
日時：令和3年4月6日（火）
内容：公開保育研究協議会に向けて 意見交換等
- ・かえで保育園
日時：令和3年4月30日（金）
内容：保育内容について、支援が必要な子の対応について
- ・どれみ保育園
日時：令和3年5月14日（金）
内容：保育内容について、支援が必要な子への対応について
- ・かえで保育園
日時：令和3年5月21日（金）
内容：カリキュラムの作成について
- ・おおたわんぱくランド
日時：令和3年7月1日（木）
内容：支援が必要な子への対応について
- ・はなだて保育園
日時：令和3年7月20日（火）
内容：園内研修について
- ・協和まほろばこども園
日時：令和3年8月6日（金）
内容：保育内容、保育の質向上について、男性保育会の研修（参観及び助言）
- ・内小友保育園
日時：令和3年8月18日（水）



男性保育会（大空大仙）

内 容：特別支援教育の園内研修

・内小友保育園

日時：令和3年8月24日（火）

内容：保育内容、支援が必要な子への対応、保育の質の向上について

・はなだて保育園

日時：令和3年8月27日（金）

内容：保育内容について、園内研修について

・なかせんワイワイらんど

日時：令和3年9月2日（木）

内容：保育内容について

・大曲中央こども園

日時：令和3年10月5日（火）

内容：園内研修について

・はなだて保育園

日時：令和3年10月11日（月）

内容：保育と協議内容について

・はなだて保育園

日時：令和3年10月19日（火）

内容：園内研修について

・大曲北保育園

日時：令和3年11月25日（木）

内容：園内研修について

・日の出ベビー保育園

日時：令和3年12月20日（月）

内容：園内研修について

・かえで保育園大曲

日時：令和3年12月27日（月）

内容：気になる子どもへのかかわりについて

○コロナ禍の状況下により、訪問時間の短縮、延期等があったが、定期訪問以外の単発派遣依頼に随時対応できた。

○園内研修を充実させるため、積極的にアドバイザーを活用する施設が増えてきた。

●アドバイザーが園への適切なアドバイス、支援をするため更に保育の見方を深めていく。

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（大仙市）

⑥派遣実績 計 47 施設 / 全 47 施設 115 回	
回数	・幼稚園：私立0園（0回） ・保育園：公立0園（0回）、私立14園（50回） ・幼保連携型認定こども園：私立10園（33回） ・その他の施設：小規模保育施設 1か所（1回）、認可外保育施設 1か所（2回）、 事業所内保育施設 1か所（1回） ・小学校： 20校（28回）

訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5園（9回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、1園（2回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5園（7回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、27園（49回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、27園（27回）） （目標のうち、20校（20回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、18園（18回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、9校（10回）） （目標のうち、12園（12回））
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各園を年2回以上訪問し、園の実態、課題の把握及び課題解決に向けた支援と保育の質の向上を図る。 ・県と同行の際、情報提供をしながら、訪問機会を増やしていく。

（3）「専門性の向上のための研修の充実」

◇県の指導主事要請訪問の機会を通じ、年齢別や保育士等のキャリア別に応じた職員を配置し、施設形態を越えた学び合う体制を推進し、その体制を定着できるよう支援していく。

【要請訪問実施施設】

保育園：10施設 認定こども園：10施設 事業所内保育施設：1施設

○設置形態を越え、他園の保育を見合い、協議に参加する体制が整えられ、自園や自身の保育に活かそうとする意識が深まってきている。希望園への参加型にすることで、主体的な学び合いに発展してきている。

○ワークショップ型の協議が定着し、保育士等が活発に意見を出しあっている。

協議後には、アドバイザーが保育士等と一対一で関わり、保育の振り返りや保育士等により寄り添った支援、アドバイスを行うことで保育士等からの信頼関係が一層深まっている。

●アドバイザーが学び合う体制づくりを勧める中で、今後、園同士で互いに学び合いの体制づくりが構築できるよう継続的に関わりながら、どう定着させていくか。

◇保育士等のスキルアップ研修

・「大仙市保育実践力向上研修会Ⅰ」を実施。

目的：保育に必要な保育の記録と指導計画の作成について理解や知識をより深め、中堅リーダーとして職務を遂行する上で必要とされる資質向上を図る。

日時：令和3年7月9日（金）午後1時30分～午後3時50分

講義：「保育の記録と指導計画の作成について」

講師：秋田県教育庁 幼保推進班 指導主事 高橋 亜希子 氏

対象：市内教育・保育施設職員の主任、副主任保育士等

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

※参加レポート提出、アンケート実施

<アンケート結果>

◇講義について

非常に満足…15名 ②満足…9名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

◇演習について

①非常に満足…14名 ②満足…8名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

<参加者の感想より>

・SOAPの視点という言葉は初めて知った。子どもの内面理解の大切さは自覚しているつもりでも記録にきちんと表しているかといえば自信がない。今回ポイントを聞くことができたので、きちんと理解した上で、園でも活用したい。

・実際に指導計画を久しぶりに書いてみて、先生達の大変さを改めて感じた。何を大切に書くのか園で話し合いたいと思う。

- ・指導計画を指導する立場として、どう伝えていけば良いか悩む事も多い。講義を受け、自分自身も勉強になった。園内研修等で取り上げ、職員に伝えていきたい。
- ・子どもを肯定的に捉えて記録することが大切だと思っけていても、演習では、うまく書き進めることができなかつた。若手保育士に指導の仕方を聞いたように、自分の中でも一つ一つ考えを出して考えていきたい。

○具体的な事例やポイントを押さえた指導に加え、それをどのように経験の少ない保育士等に指導していくかを考える演習を通して、中堅リーダーとしての自覚と資質を高める良い機会となった。

●研修で得た知識を共有し、保育の質の向上に繋げるために教育・保育アドバイザーがどうかかわっていくか。

- ・「大仙市保育実践力向上研修会Ⅱ」を実施。

目的：講義・演習を通じて、指導要録・保育要録の作成の仕方を学び、幼児期から学齢期までの情報共有や切れ目のない支援の必要性を再確認する。

日時：令和4年1月21日（金）午後1時30分～午後3時50分

講義：指導要録・保育要録の作成の仕方について

講師：秋田県教育庁 南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

対象：市内教育・保育施設職員

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

※参加レポート提出、アンケート実施

<アンケート結果>

◇講義について

①非常に満足…18名 ②満足…5名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

◇演習について

①非常に満足…16名 ②満足…7名 ③普通…0名 ④やや不満…0名 ⑤不満…0名

<参加者の感想より>

- ・10の姿を捉えながら子どもの育ちを記入していく所を難しく感じていたが、“分類”すると分かり易いことがわかつた。また、他園の先生が書いたものを見る機会がなかつたので大変参考になつたし、自分で書いてみたことでより勉強になつた。
- ・未満児にも通じる大切な内容で、たくさん学ぶことができた。子どもの育ちにしっかりと目を向けて保育に努めたいと思う。
- ・講義を聞いて理解したと思つても、実際に10の姿を取り入れながら文章にするのは難しいと思つた。自分の文章に“ツッコミ”を入れ、何がどう育つたかをしっかり捉えて記入するようにしたい。
- ・未満児の個別の指導計画の書き方にも通じるものがたくさんあつた。また、自分の文章を他の先生にも見てもらつて、自分では気付かない書き方に気付くことができた。
- ・例を挙げ具体的に講義していただき大変分かりやすかつた。マイナス部分を書き出すことがよくあるが“ポジティブめがね”で捉え方を変えることで子どもの見方、感じ方も違ってくることもよく理解できた。
- ・他の先生の記述を見ることで、視点、援助、変容など大変参考になつた。

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・市内小学校（20校）への事業計画のための訪問。（年間行事、連携計画等の情報収集）
- ・保育や授業の相互参観及び協議への参加を促し、幼小の相互理解を深め、よりよい連携を図るための支援をおこなう。
- ・幼小で育む資質・能力をふまえ、接続を見通した教育課程の編成の支援をおこなう。
- ・幼小連携のための合同研修会の開催

- ・幼小連携だより「だいせん元気っ子」の発行（月1回程度）
〈授業参観及び研究協議〉就学前教育・保育施設職員からの参加
 - ・大曲小学校
日時：令和3年5月26日（水）
内容：1年生4クラスの授業参観
参加：大曲中央こども園、大曲南保育園、大曲東保育園、大曲駅前こども園、日の出ベビー保育園、どれみ保育園 6園から14名
 - ・太田北小学校
日時：令和3年7月7日（水）
内容：1年生（図工）の授業参観
参加：おおたわんぱくランドから2名
 - ・中仙小学校
日時：令和3年7月15日（木）
内容：1年生（国語）の授業参観・協議
参加：なかせんワイワイらんどから1名
 - ・藤木小学校
日時：令和3年8月31日（火）
内容：1年生（特別活動）の授業参観・協議
参加：藤木保育園から2名
 - ・四ツ屋小学校
日時：令和3年10月20日（水）
内容：1年生（国語）の授業参観・協議
参加：四ツ屋こども園から2名
 - ・清水小学校
日時：令和3年10月22日（金）
内容：1年生（国語）6年生（国語）の授業参観・協議
参加：なかせんワイワイらんどから1名
 - ・大曲小学校
日時：令和3年11月1日（月）
内容：1年生（算数）2年生（図工）4年生（図工）6年生（算数）の授業参観・協議
参加：大曲中央こども園、大曲駅前こども園、大曲東保育園、大曲北保育園 4園から8名
 - ・大曲東小学校
日時：令和3年11月4日（木）
内容：1年生（国語）2年生（国語）
参加：大曲東保育園、大曲南保育園 2園から2名
 - ・大川西根小学校
日時：令和3年11月16日（火）
内容：1年生（算数）
参加：大川西根保育園から2名（園長、1年生が年長児の時の担任）
 - ・南外小学校
日時：令和3年12月17日（金）
内容：1年生（音楽）
参加：つきの木こども園から1名（4歳児クラス担任：1年生が年長児の時の担任）
- 〈保育参観及び園内研修〉小学校職員からの参加
- ・大川西根保育園
日時：令和3年6月10日（木）
内容：5歳児クラスの保育
参加：大川西根小学校から1名（教頭）



小学校一年生の授業参観

- ・みつば保育園
日時：令和3年6月23日（水）
内容：4・5歳児クラスの保育
参加：西仙北小学校から1名（教務主任）
 - ・なかせんワイワイらんど
日時：令和3年6月29日（火）
内容：5歳児クラスの保育
参加：中仙小学校から1名（教頭）、清水小学校から1名（1年担任）
 - ・大曲東保育園
日時：令和3年7月8日（木）
内容：2歳児、5歳児クラスの保育
参加：大曲小学校から1名（教頭）
 - ・協和まほろばこども園
日時：令和3年7月13日（火）
内容：5歳児クラスの保育
参加：協和小学校から1名（教頭）
 - ・角間川保育園
日時：令和3年7月14日（水）
内容：4・5歳児クラスの保育
参加：角間川小学校から1名（1年担任）
 - ・つきの木こども園
日時：令和3年7月15日（木）
内容：5歳児クラスの保育
参加：南外小学校から1名（校長）
 - ・大曲中央こども園
日時：令和3年10月13日（水）
内容：2歳児・5歳児クラスの保育
参加：大曲小学校から3名（教頭、通級担当、1年主任）
 - ・中仙東保育園
日時：令和3年10月26日（火）
内容：5歳児クラスの保育
参加：豊成小学校から3名（4、5、6年の担任）
 - ・大曲北保育園
日時：令和3年11月30日（火）
内容：2歳児・5歳児クラスの保育
参加：大曲小学校から3名（教頭、通級）花館小学校から3名（校長、通級、1年担任）
 - ・内小友保育園
日時：令和3年12月1日（水）
内容：4・5歳児混合クラスの保育
参加：内小友小学校から1名（校長）
 - ・藤木保育園
日時：令和3年12月7日（火）
内容：2歳児クラス 4・5歳児混合クラス
参加：藤木保育園から2名（教頭、1年担任）
- *参加予定はあったもののコロナの感染拡大により実施できなかった園は5園
- 保育参観に留まらず協議に参加する小学校もあり、園での学びが小学校への学びへ繋がっていることがより意識できる機会になっている。
- スタートカリキュラムを小学校だけでなく、園も関わって作成し、共有しようとする小学校区も増えてきている。



小学校教諭を交えての協議会



夢中になって遊ぶ子どもたち

- スタートカリキュラムの作成を共有できていない小学校区もあり、偏りがある。

◇就学前・小学校大仙地区合同研修会を開催。（オンライン研修）

目的：講義や小学校区での意見交換等を通じ、就学前教育と小学校教育の円滑な接続に向けたよりよい連携の在り方を考える。

日時：令和3年9月16日（木）午後1時～午後3時30分

内容：講義、意見交換

講義：「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師：秋田県教育庁 南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏
秋田県教育庁 南教育事務所仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏

対象：市内教育・保育施設職員及び小学校職員

※同時開催計画の公開保育研究協議会（午前の部）はコロナ感染拡大防止のため、中止。

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」対象

※参加レポート提出、アンケート実施

<参加者の感想より>

◇就学前施設の参加者より

- ・情報を共有する時間を設けてもらい、近隣の取組が聞けてとても勉強になった。
- ・1年生は「ゼロからのスタートではない」園で積み重ねた資質・能力と経験を小学校にしっかりと伝える情報交換にしたい。
- ・子どもたちは就学への期待を膨らませているので、1人1人の子どもの力を発揮できる場を設け自己肯定感をもたせて小学校生活への意欲につなげていきたい。
- ・各年齢の発達を捉え、必要な経験を積み重ねられるような保育の大切さを改めて感じた。
- ・幼小連携状況を数値化することで見えてくる課題が理解でき興味深かった。
- ・小学校のスタートカリキュラムやユニバースデザイン等の取組を、改めて知ることができた。

◇小学校の参加者より

- ・就学前と就学後の両方の立場からお話を聞くことができたので大変良かった。
- ・これまで年長児を「できない人、お世話してあげなければならない人」として、交流の計画を立ててしまっていた。
- ・スタートカリキュラムの必要性、重要性を分かり易く教えていただきました。
- ・園小の連携が実質「7年部」に限られていたが、さっそく全職員で育ちや学びを共有していきたい。
- ・1年生を担当し「ゼロからのスタートではない」ことを日々実感している。10の姿につながる学びを得てきたことを学習中の姿や休み時間の過ごし方から見て取れる。そして既に出来ることを生かして問題解決に取り組んでいる。

- コロナ感染防止のため、当初の予定から急遽オンライン研修に変更となったが、2人の講師が幼小への繋がりをより意識できる内容をプログラミングし、丁寧で、かつわかりやすい講義であったことや教育委員会との連携協力、教育・保育アドバイザーのスムーズな進行により、充実した研修会になった。参加者から好評価を得た。

- コロナ感染防止のため、同時開催を予定していた公開保育研究協議会を中止としたが、予め、子どもの遊びや活動場面の様子が視聴でき、小学校区ごとの協議ができる環境を整えられれば更に充実できる研修会になった。

(5)「県との連携体制の充実」

- ・県主催の連絡協議会等、事業への継続的な参加。
- ・県主催事業を通じ、事業実施市との情報交換及び連携。
- ・事業実施市の公開保育の視察や研修会への参加。
- ・県指導主事要請訪問の同行を継続。（保育に対する指導や助言の共有）

○連絡協議会では、他実施市との情報交換に加えて、動画や写真、エピソード等を使用しての子ども理解や保育のあり方を考え合うことで、アドバイザーの役割を再確認し、意欲を高めることができた。また、要請訪問の同行や研修会への参加により、保育の見方のスキルを高めアドバイスに生かすことができた。

●他実施市のアドバイザーとの連携を深め、協議会だけでなく普段から必要に応じて情報交換し、自市の取組に生かすこと。また指導主事や保育指導員の園（保育士等）への指導や助言をより日常の保育の向上に結び付け、保育士等の意欲の向上につなげるためのアドバイザーの関わり方。

◇教育・保育アドバイザーのスキルアップを図るため、ADに学ぶ会を実施。

日 時：令和3年11月12日（金）

会 場：保育参観… はなだて保育園

保育の振り返り…花館公民館

アドバイザー協議…はなび・アム

参集者：秋田県教育庁 幼保推進班 指導主事及び教育・保育アドバイザー

秋田県教育庁 南教育事務所 主任指導主事、指導主事

事業実施市（横手市・仙北市） 教育・保育アドバイザー

はなだて保育園

園長、主任、保育担任等

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R2～R3）の成果と課題

学び合う体制構築では、県指導主事による要請訪問の機会を通じ、設置形態を越えた学び合いにより、他園の保育を見合う経験から新たな気づきを得る機会となり、共に保育の在り方や環境構成について学び合うことができた。小学校との連携では、保育参観に留まらず、協議まで参加することで、これまで見えなかった園での育ちや学びについて理解し、小学校教育に活かそうとする意識が高まり、園での育ちや学び、資質・能力について改めて考える機会となった。また、教育委員会との連携では、事業担当者を通じ、次年度事業の「公開保育研究協議会」等の事業について、課長レベルで打ち合わせをおこなうことができた。県及び事業実施市との連携では、県主催事業、事業実施市の研修会に参加することで、アドバイザーのスキルアップに繋がった。

令和3年度も継続して、教育・保育アドバイザー2名による体制で活動。アドバイザーと園、小との関係性が深まってきた。コロナ禍の中において事業が延期になることもあったが、定期訪問ほか園内研修をより充実させるため、派遣要請する施設が増えてきた。コロナ禍の状況をふまえ、日程調整しながら、要請に応じた。保育士等の資質向上研修会は、中堅リーダーを対象として保育の記録と指導計画の作成について講義、演習をおこなった。保育者の見方や読み取る力が必要であること、子ども一人一人の実態をよく見て内面を理解できるよう視点を持ち、保育を実践していくことの大切さを学んだという感想があった。研修会での学びを園で確実に共有し、実践できるよう支援していく必要がある。地域で学び合う体制構築では、希望園への参加型にすることで、保育士等が活発に意見を出し合い、主体的な学び合いに発展してきている。園同士で学び合いの場がもてるよう、継続的に関わっていく必要がある。小学校との連携では、授業参観後の協議に参加する園もあり、園での学びが小学校への学びへと繋がっていることがより意識できる機会になり、スタートカリキュラムを園も関わって作成し、共有しようとする小学校区も増えている。就学前・小学校大仙地区合同研修会では、市内全教育・保育施設職員及び小学校職員を対象に「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」と題し、講義、意見交換をおこなった。1年生は「0からのスタートではない」園でたくさん育てている姿を大切にしたい等、指導要領に基づくカリキュラムの連続性、園、小それぞれのアプローチや見方について、改めて考える時間になった等の感想があった。「園と小学校をつなぐ」ため、幼小接続の大切さについての気づきが今後もより深められるよう、関係機関との連携、協力、共有を図り、今度も事業を推進していく必要がある。

実施市の具体的取組（にかほ市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各園の特色・特長を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する
- (2) 教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる

2 令和3年度の目的、重点、実施内容

【目的】

- ・教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努める。
- ・事業の周知を図り、行政と園が連携して教育・保育の質の向上に向けた取り組みについて検討する。
- ・小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。

【重点】

事業の周知を図り、園との連携体制を構築する。各園の課題の把握に努め、保育環境を向上させるための支援策について検討する。

【実施内容】

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・子育て支援課と学校教育課の連携を強化し、円滑な幼保連携のための情報共有を図る
- ・小学校の訪問、情報共有により就学までに身に付けるべき資質の向上のための対応について情報共有する

令和4年3月22日（水） 平沢小学校、院内小学校

3月25日（金） 金浦小学校、象潟小学校

- 未就学児童の集団訓練や幼児相談カンファレンス等を通じて、配慮を有する子どもの就学に必要な支援について関連部署において情報を共有している。
- 各関連部署との情報共有を包括的に検証する機会を持ち、次年度以降の情報の引継ぎ等に役立てるようにしたい。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

幼児教育アドバイザーの配置・育成など体制の充実

- ・子育て支援課に教育保育アドバイザー1名を配置
- ・事業の周知を図り、各園との信頼関係構築に努める。定期的な巡回訪問を実施し、各保育園の実情を把握し、適切な助言を行う（各園月1～2回程度を予定）
- ・家庭児童相談室、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、配慮が必要な子どもとその親に対する適切な支援（毎月）

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（にかほ市）

◎派遣目標 計 21施設/全 21施設 47回	
回数	・保育園：私立5園（30回）
数	・幼保連携型認定こども園：私立4園（17回）

訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画） 5園（15回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備） 2園（3回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等） 9園（37回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査） 9園（38回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明） 7園（7回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化） 3園（4回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等） 2園（2回）
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各園を月2回程度訪問し、アドバイザー派遣事業の周知を図るとともに、各園の実情と課題の把握及び課題解決に向けた支援を通じて保育の質の向上を図る。 ・家庭児童相談室、母子保健支援班との情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその親への関わり方について園を含めて情報を共有することにより支援の充実を図る。

- 教育・保育アドバイザーの存在を意識し、保育者が主体性を持って課題の提供や目標の設定に協力的だったことは、大きな収穫となった。
- 園の規模や体制により課題や目標に個性が見られた。事業実施初年度であることから、引き続き、各園の環境やニーズ把握に努めながら、市全体で共有できる教育・保育体制の充実に繋げていく必要がある。

初年度の取り組みとして、主に市内保育所・認定こども園にわか杉っ子！事業実施の意義を理解してもらい、アドバイザーとの連携を園の予定に組み入れていくこととした。

コロナ対策として市内の公共施設利用が制限されるなど、園や学校への訪問を控えた期間があったため、予定よりも訪問回数が少なくなっている。次年度以降は不測の事態に備えて、オンラインの活用なども視野に計画的な交流ができる様な協力体制を整えていきたい。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

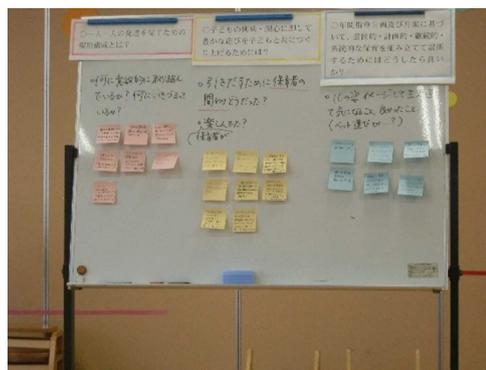
専門性向上のための研修、研究支援

- ・体制活用のための人材育成方針の作成（ポイントをまとめた冊子として配布）
→ アドバイザーの活動内容と新年度の事業計画をまとめたお便りを配布（3月実施）
- ・保育の質向上のため連携協定を結ぶ教育機関（大学等）と連携し、実践的なキャリアアップ研修の充実を図る
→ コロナ禍により実施を見送った。次年度に向けて調整する。
- ・園内リーダーの育成を目的に、情報交換会を行い、課題への対応と問題解決に向けた研修を実施する（1月28日実施のキャリアアップ研修とした）



11月1日（木）園内研修（左）・研修後の意見交換会（勢至保育園）

◇研修後の意見交換会では、「公開保育の意義」や「保育計画のねらい」に沿った保育の在り方について質問や意見が交わされた。次回の訪問に向けて、それぞれの考えを実践できるように取り組むこととした。



(写真左) 11月18日(木) ひまわり保育園での園内研修後、カンファレンスの様子

◇お互いの保育を観察し、子どもとの関りや職員間のやり取りに目を向けることができた。次回12月16日実施予定の園内研修では、振り返りの中から出た「職員間の連携」について深堀りすることで意見がまとまった。

(写真右) 11月24日(水) 星城こども園。研修後の検討会でボードに課題を張り出して認識の共有を図った。

◇考えを視覚化することで、情報共有がしやすく感じた。情報や思いの「伝え方」が大切だということを学んだ。

- 園内研修に向けた助言や内容の検証について、園訪問に合わせて実践することができた。
- 地域全体で学び合う研修会の実施に向けたニーズを把握し、対象となる保育者が参加しやすい研修会の実施を検討する必要がある

園内研修を通じて、「自園内だけではあったがミニ公開保育を実施しながら保育内容や園内研修、園内研究の大切さを見直す機会となった」「自分事としてよりていねいに子どもを見取るようになった」などの意見が寄せられた。アドバイザーと連携を図ることにより、保育者からの悩みや思いをお互いに話しやすくなった。その中から、次の保育に繋げていく手立てについても細かく話し合うことができ、保育に対しての意識に変化が見られるようになった。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

幼小接続の推進に向けた連携体制の強化

- ・ 毎年実施している幼小接続のカリキュラムを検証し、より効果的な体制の構築を図るため、関係部局が連携して情報交換を進める(3月実施)
- ・ 子育て支援課と学校教育課の連携による情報共有と次年度へ向けた課題の検討会を開催(3月実施)

○ これまでに実施してきた事業への参加・協力体制を強化することで、相互理解を深めることに繋げている。

● 効果的な幼児教育の実践に向けた専門家との研究会について、効果的な実施がなされなかった。

◇アドバイザーが訪問支援する中で、各園より「保育要録の記録方法」「小学校との情報共有」への対応に関する質問や専門的な指導を求める声が多く聞かれた。キャリアアップ研修としての実施を要請したところ、幼保推進課より講師派遣の協力をいただいた。

県内でコロナ感染者数の増加が見られたため、配置等対応に変更があった2園が欠席となり、また、密を回避するためリモートでの開催となったが、各園より担当者と主任の2名が参加した。

演題：保育士キャリアアップ研修「小学校への円滑な接続に向けた研修会」

期日：令和4年1月28日（金）

講師：秋田県教育庁幼保推進課指導班 副主幹兼班長 浅野 直子 先生

参加：7園14人

講義の内容は子どもの見取りを中心に、就学後の子どもの成長に繋がる保育・教育に関する具体的な事例紹介に対して、参加者同士で意見を交わしたり発表したりする内容で、リモートではあったが、参加者が積極的に関わることができた。参加者からは、「要録の記録について要望したが、小学校教育との円滑な接続についても具体的に話を聞くことができた」「グループでの討議・演習も効果的で充実した研修となった」「子どもの主体性を大切にすることなど基本的な姿勢について改めて重要性を認識した」などの意見があった。

参加できなかった職員とも情報を共有し、今後の保育に全体のレベルアップに繋げることとした。

(5)「県との連携体制の充実」

- ・秋田県幼保推進課との情報共有を密にし、また、先進地の事例等を研究しながら、各園のニーズにあった支援体制づくりを行う（県の同行による各園訪問）
- ・専門家による講演会を実施し、保育者のみならず、保護者や地域の関心を惹く内容とすることで地域全体の意識のボトムアップを図る（11月）
- ・教育・保育アドバイザーの活動を含めた市の子育て支援体制の充実について認知度を高め、地域全体での子育て支援への理解を深める（子ども子育てのまちシティプロモーションとの連携）
- ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用

○ 県アドバイザー連絡協議会では、他市の取り組みを学ぶことができ参考になった。県アドバイザーからの助言等を励みに引き続き、効果的な事業実施に取り組みたい。

● アドバイザー連絡協議会等での他市のアドバイザーとの交流から参考になる事例を学び、取り入れていく必要がある。

◇にかほ市からの要請訪問に応じて、県アドバイザーによる訪問同行支援を実施

令和3年 6月 8日 明星こども園

10月25日 白百合こども園

◇園からの要請による県のアドバイザー訪問支援に同行して研修

令和3年11月24日 星城こども園

12月 1日 明星こども園

◇わか杉っ子！今年度事業の実施状況の振り返りと次年度事業の実施について幼保推進課指導主事、県アドバイザーより訪問を受け指導

令和3年10月11日 にかほ市役所仁賀保庁舎

要請訪問や訪問支援の同行では、保育士との関り方、助言の方法などを実際の訪問の中で一緒に体験することができて心強く感じた。市の事業の進め方や今後の事業の持ち方等についても具体的な指導を受けることができて参考になった。

3 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R3）の成果と課題

にかほ市では、令和元年度から国で3歳児以上の保育料を無償化するタイミングで、以前から実施していた保育料の一部補助を拡充し、0歳児からの無償化を実施した。これにより、保育を必要とする家庭が、保護者の経済状況などに影響されることなく就学前教育・保育を受けることができるようになった。同時に、保育者への期待や負担も高まり、モチベーションの維持や課題への取り組み、保護者を含む保育環境への対応など保育の質の維持・向上との両立への課題が寄せられていた。保育者の不安や悩みを軽減することで、保育者の能力を日々の保育に集中させ、幼児教育の質の向上を図ることを期待して、教育・保育アドバイザーの配置に至った。

就学前教育推進協議会での実施市の事例報告等では、各市の実情に合わせた取り組みが実施への参考になった。行政の規模や環境は違っても、課題とすること、目標とすることの共通点が見いだせたことは大きな励みとなった。行政と保育現場の橋渡しの立場で現場に寄り添うアドバイザーの役割に多いに期待し、市全体の教育・保育の質の向上に繋がりたいと考えている。